

令和4年度 独立行政法人国立美術館

年報

Independent Administrative Institution National Museum of Art  
ANNUAL REPORT 2022

2022

|                                                          |    |
|----------------------------------------------------------|----|
| 1 総論                                                     | 2  |
| 2 主要記事                                                   | 3  |
| 3 特徴的な取組                                                 | 4  |
| 4 展覧会活動                                                  |    |
| 4-1 所蔵作品展                                                | 11 |
| 4-2 企画展                                                  | 15 |
| 4-3 映画上映等(国立映画アーカイブ)                                     | 22 |
| 4-4 巡回展                                                  | 24 |
| 4-5 美術創造活動の活性化の推進(公募団体等への展覧会会場の提供等)(国立新美術館)              | 26 |
| 5 美術情報の収集・発信活動                                           |    |
| 5-1 情報資源発信に向けた取組                                         | 27 |
| 5-2 美術情報・資料の収集及び情報サービスの提供                                | 28 |
| 6 教育普及活動                                                 |    |
| 6-1 幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等)及びラーニングコンテンツ等の開発 | 31 |
| 6-2 ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業及び企業や地域等との連携による事業の開発・実施等  | 31 |
| 7 調査研究活動                                                 |    |
| 7-1 調査研究一覧                                               | 33 |
| 7-2 調査研究成果の発信                                            | 34 |
| 8 コレクションの形成・活用・継承                                        |    |
| 8-1 作品の収集                                                | 36 |
| 8-2 所蔵作品の修理・修復                                           | 43 |
| 8-3 所蔵作品の貸与                                              | 43 |
| 9 ナショナルセンターとしての活動                                        |    |
| 9-1 国内外の美術館等との連携・協力等                                     | 44 |
| 9-2 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施                          | 45 |
| 9-3 キュレーター研修、インターンシップ、博物館実習                              | 45 |
| 9-4 アートカード・セット                                           | 45 |
| 10 決算報告                                                  | 46 |
| 11 会員制度等                                                 | 47 |
| 12 名簿                                                    | 48 |

# 1

## 総論

令和4年度は第5期中期目標期間の2年目であり、中期計画及び年度計画に沿って所定の事業を実施した。

### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

各館において多彩なジャンルをテーマとした展覧会を開催した。所蔵作品展においては、各館とも、調査研究の成果に基づき、季節に合わせた作品選定、企画展と連動したテーマ展示など時宜をとらえた企画を多く開催した。企画展においては、世界の美術の新たな動向を紹介する展覧会や我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会、メディアアート等の先端的な展覧会、作家・作品の再発見、再評価、我が国に所在するコレクションの積極的活用を目指した展覧会など、意欲的な取組を行った。主要なものとしては、現代日本を代表する美術家として確固たる地位を築いている大竹伸朗の回顧展「大竹伸朗展」(東京国立近代美術館)、日本の伝統陶芸の歴史を築き上げてきた日本工芸会陶芸部会の活動が50周年を迎えたのを記念して企画した「未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ展」(国立工芸館)、大正から昭和にかけて日本画家として、そして時代劇映画の衣裳考証家として活躍した甲斐荘楠音の回顧展「開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌—絵画、演劇、映画を越境する個性」(京都国立近代美術館)、ドイツ・エッセンのフォルクヴァング美術館と互いのコレクションにもとづいて共同企画した「国立西洋美術館リニューアルオープン記念 自然と人のダイアログ フリードリヒ・モネ、ゴッホからリヒターまで」(国立西洋美術館)、日本の現代美術を代表する7名の作家を個展形式で紹介した「感覚の領域 今、「経験する」ということ」(国立国際美術館)、メトロポリタン美術館の常設展示室の改修を機に実現し、通常は貸し出されない常設展の主要作品が出品された「メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年」(国立新美術館)等が挙げられる。

国立映画アーカイブにおいては、映画上映会・展覧会を開催した。主要なものとしては、これまで埋もれていた数多くの女性映画人について紹介し、日本映画史に対する新たな視座を切り拓く試みとなった上映会「日本の女性映画人(1)——無声映画期から1960年代まで」等が挙げられる。

国立美術館巡回展は国立国際美術館が担当し、2会場で開催したほか、国立映画アーカイブの優秀映画鑑賞推進事業は、108会場において実施した。

教育普及活動においては、コロナ禍で定着したオンラインコンテンツを充実させつつ、対面でのギャラリートークの再開や、講演会の実施など、利用者のニーズに合わせ、様々な形で学習機会を提供した。そのほか、成人の視覚障がい者の方に向けた鑑賞サポートや視覚障がい者及び聴覚障がい者向けのギャラリートーク等を実施し、幅広い層への鑑賞機会の創出につなげた。

また、日本の芸術創造活動の活性化のため、国立新美術館の公募展示室を美術団体等へ提供したほか、美術に関する情報の拠点としての機能向上のため、所蔵作品等のデジタル化・データベース化等を進めた。

そのほか、来館者に向けて、多言語による各種案内、入場料金・開館時間等の弾力化、ミュージアムショップ・レストラン等の充実など、快適な観覧環境を提供するための様々な取組を継続的にを行っている。

### 2 コレクションの形成・活用・継承

国立美術館の役割を踏まえた質の高いナショナルコレクションの形成を図るため、新たに法人全体の作品収集方針等を策定し、各館の収集方針に反映させた。また、法人予算の重点配分により現代作品の同時代収集を進めた。

作品の収集については、購入、寄贈ともに、全体として体系的・通史的にバランスのとれたコレクションの充実を図ることができた。安田靫彦《居醒泉》(東京国立近代美術館)、川之邊一朝《梨子地青貝唐草内蔭絵硯箱・料紙箱》(国立工芸館)、八木一夫《ザムザ氏の散歩》(京都国立近代美術館)、アウグスト・ストリンドベリ《インフェルノ(地獄)》(国立西洋美術館)、村上隆《727 FATMAN LITTLE BOY》(国立国際美術館)などを収集した。

そのほか、国内外の美術館等への所蔵作品の貸与についても、所蔵作品の展示計画、作品保存等に配慮しつつ、可能な限り積極的に取り組んだ。

### 3 ナショナルセンターとしての活動

17年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、3年ぶりに対面で開催したほか、インターンシップ、キュレーター研修、博物館実習など人材育成に取り組んだ。

また、美術振興のナショナルセンターとして国内美術館の活動全体の活性化に寄与するため、国立アトリサーチセンターの設置に向けて各種の取組を実施し、令和5年3月28日に同センターを設立した。

# 2

## 主要記事

|      |     |     |                                 |
|------|-----|-----|---------------------------------|
| 令和4年 | 4月  | 1日  | 渡部葉子が理事に就任                      |
|      | 4月  | 9日  | 国立西洋美術館がリニューアルオープン              |
|      | 4月  | 30日 | 加藤敬が東京国立近代美術館長を退任               |
|      | 5月  | 1日  | 小松弥生が東京国立近代美術館長に就任              |
|      | 12月 | 1日  | 東京国立近代美術館が開館70周年を迎える            |
| 令和5年 | 2月  | 28日 | 第5期中期目標の変更                      |
|      | 3月  | 1日  | 京都国立近代美術館が開館60周年を迎える            |
|      | 3月  | 17日 | 国立西洋美術館が川崎重工業株式会社とパートナーシップ協定を締結 |
|      | 3月  | 28日 | 国立アトリサーチセンターを設立                 |
|      |     |     | 片岡真実が国立アトリサーチセンター長に就任           |

### 国立アトリサーチセンター

令和5年3月28日に設立された国立アトリサーチセンター（NCAR）は、「アートをつなげる、深める、広げる」をキーワードに、国内外の美術館、研究機関をはじめ社会のさまざまな人々をつなぐ新たな拠点として、専門領域の調査研究（リサーチ）に留まらず、広く社会と連携しながら、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティストの支援などに取り組み、日本の美術館活動全体の充実を目指す。

#### ●美術館コレクションの活用促進

国内各地の美術館等と連携した展覧会・コレクション展示事業や、作品の収集・展示・保存修復に関する調査研究の推進およびセミナー・ワークショップの開催やウェブサイトでの情報発信などを通じて、国立美術館コレクションの持続可能な活用と全国の美術館活動の発展に貢献することを目指す。

#### ●日本のアートに関する情報資源の集約・発信

ナショナルセンターとして日本全国の情報を包括的に集約・発信する。日本のアートについての調査（リサーチ）活動を支援し、世界のアート分野における日本の存在感を高めるため、日本のアーティストや作品に関する国際的な調査研究拠点となるポータルサイト（「アートプラットフォームジャパン」）の整備に取り組む。また、全国の美術館を対象とするコレクション情報の集約・発信にも取り組む。

#### ●海外への発信・国際ネットワーク構築

日本のアートの国際的な価値の向上に資するための情報発信拠点として、国内外の美術館や美術関係者との交流を通じ、ネットワークの構築に取り組む。国際シンポジウムやワークショップの開催、主要文献の翻訳、アーティストへの様々なサポートを通じ、日本のアートを広く国際的に発信する。

#### ●ラーニングの充実

だれもがアートに出会い新しい価値や可能性を見出すことができるよう、現代の社会に求められる新しいプログラムや教材の研究開発に取り組む、情報の提供を行う。また、教員や学芸員のための鑑賞教育研修や、アートと医療・福祉等が連携した事業の企画立案、美術館へのアクセシビリティを高める事業の推進、シンポジウムやオンラインレクチャーの開催など、国内外の事例等を調査し、重要な視点や課題を明らかにしながら、日本の美術館全体に資する活動を行う。

#### ●その他の事業

センターの発足と活動について広く周知を図り、「アートを広げる」ための取組を実施する。このほか、さまざまな企業・団体との分野を横断した連携（パートナーシップ）の構築によるアートの社会的価値の向上につながる活動の推進や、多様な連携・支援の枠組みを創り、広げていくことによって国立美術館の機能強化を図る。

# 3

## 特徴的な取組

# 東京国立近代美術館

### 〈本館〉

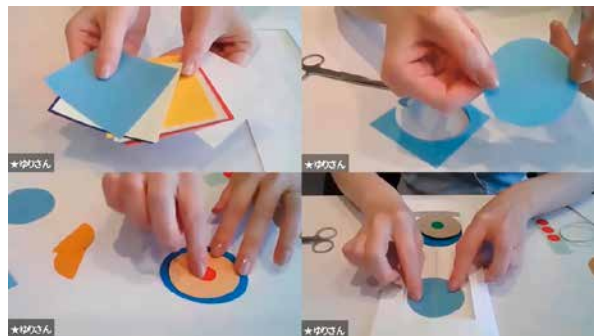
令和4年12月1日に開館70周年を迎えたことから、所蔵品ギャラリー内の情報コーナーを一新、東京国立近代美術館の歴史を紹介する大型年表や資料展示ケースを設け、来館者が館により親しみを持っていただくための導入スペースとなった。ほかにも70周年にあわせて、所蔵作品展において館の歴史を振り返り、また未来を展望するような企画を数々おこなった。開館初年度収蔵作品の特集、特徴的な寄贈作品に光を当てる企画「ギフト」、東京国立近代美術館の保存修復活動を紹介する特集など、年度を通して切り口を変えながら70周年をアピールした。また、所蔵作品展内で、開館1周年時に開催した展覧会を振り返る小特集「プレイバック『抽象と幻想』展(1953-1954)」を行い、再現VRの駆使、情報資料(ライブラリ)や教育普及との協働など新機軸を打ち出し、メディアで取り上げられるなど話題を呼んだ。

オンラインの取組では、鍋木清方展で研究員がTwitterライブ(視聴者推定15万人)に出演したほか、YouTubeチャンネルのコレクションに関わる動画配信を拡充した。英語話者向けの「Let's Talk Art! Online」及び同プログラムへの留学生招待キャンペーン、小学生向けの「こども美術館」、未就学児と家族向けの「おやこでトーク」など、様々な対象者に向けたプログラムもオンラインで実施した。

また、毎年恒例の全館イベント「美術館の春まつり」を開催したほか、国立アトリサーチセンター(設置準備室における取組を含む。以下同じ。)と連携して大日本印刷株式会社(DNP)と協働で、新たな作品との出会いを創り出し、美術作品への関心を広げるインタラクティブな作品鑑賞サービス「MOMATコレクション ナビキューブ」を制作し、エントランスホールにて公開した。



「プレイバック『抽象と幻想』展(1953-1954)」会場風景  
撮影：大谷一郎



「夏休み！こども美術館オンライン」の様子



「美術館の春まつり」会場風景  
撮影：三嶋一路



「MOMATコレクション ナビキューブ」操作の様子



## 〈国立工芸館〉

新型コロナウイルス感染症の影響を受け入館者数を制限した運営ではあったが、臨時休館することなく2つの企画展と3つの所蔵作品展を開催した。企画展は、まず「未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展」を実施、関連イベントとして出品作家である人間国宝とのトークショーを開催した。次に年度末には「ポケモン×工芸展」を開催させた。ゲーム世界から生まれたポケモンという全世界的に有名なコンテンツと日本の工芸を組み合わせるという新しい試みは、来館者層の拡大という狙いどおりの効果を見せている。

所蔵作品展では、令和3年度は途中で臨時休館を余儀なくされた子どもが楽しめる展覧会を準備し、石川移転仕様にバージョンアップした「こどもとおとなの自由研究 工芸の○△□×展」として開催、一部「特別陳列 北村武資」コーナーも設けた。秋にはこれまでと異なる視点で収蔵品を紹介する「ジャンルレス工芸展」を開催、行動制限が緩和された行楽シーズンということもあり、目標を大幅に超える入館者数であった。冬には国立工芸館所蔵の国外作家作品を紹介する「工芸館と旅する世界展―外国の工芸とデザインを中心に」を開催した。コロナ禍で海外への渡航が制限されるなかでの開催は美術展の新たな楽しみ方を提示した。

また、夏期には移転後初めて夜間開館を行った。金沢という中規模な観光都市における夜の開館が有効なのか検証するための実験的な取組であり、石川県立美術館及び石川県立歴史博物館との3館連携開催を試みた。来館を促すきっかけが必要であることから、来館者誘導促進の一環と美術作品鑑賞の一助として、35mmフィルムと映写機による上映企画「映写機で知る工芸の世界」を無料開催、一定の効果は見られたと考えられる。



「ポケモン×工芸展―美とわざの大発見―」  
吉田泰一郎《サンダース》2022年 個人蔵  
2023 Pokémon. ©1995-2023 Nintendo/  
Creatures Inc. /GAME FREAK inc.  
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・  
クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。



「ポケモン×工芸展―美とわざの大発見―」  
小宮康義《江戸小紋 着尺「ゲンガー・ゴースト」》  
2022年 個人蔵  
2023 Pokémon. ©1995-2023 Nintendo/  
Creatures Inc. /GAME FREAK inc.  
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・  
クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。



夜間開館チラシ



工芸技術映画を上映した映写機

# 京都国立近代美術館

7つの企画展と5回のコレクション展を開催した。

「サロン！雅と俗ー京の大家と知られざる大坂画壇」や「ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡ー市民が創った珠玉のコレクション」では、海外の美術館や研究機関と対話を重ね、その成果として、お互いの信頼関係を構築・更新し、展示作品の充実化や、とりわけ新たな情報や視点を盛り込んだ図録刊行へと繋げることができた。

「没後50年 鎗木清方展」、「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」、「開館60周年記念 甲斐莊楠音の全貌ー絵画、演劇、映画を越境する個性」は、いずれもひとりの作家の回顧展であったが、各展で新発見作品・資料の紹介や包括的情報の整理・公開が行われ、改めて美術館における調査研究と展覧会開催の連携の重要性を確認できた。とりわけ1997年に京都国立近代美術館で初回顧展を開催した甲斐莊楠音については、当時詳らかにできなかった映画界での活躍などに関する新資料（時代劇衣裳など）の発見があり、それらに関する最新の研究成果を反映させることで、前回の展覧会内容を大幅に刷新し、来場者に新たな作家像を示すことに成功した。

コレクション展においては、企画展と連動した主題の展示を引き続き行った。また同会場で、比較的小規模な企画展「MONDO 映画ポスターアートの最前線」とフィンランドの伝統的織物である「リュウユーフィンランドのテキスタイル：トゥオマス・ソパネン・コレクション」を開催した。前者は「映画ポスター」に注目した国立映画アーカイブとの9回目となる共催展であり、後者はフィンランド側の全面的協力のもと可能となった展覧会であった。

新たな美術鑑賞プログラム推進事業である「感覚をひらく」では、文化庁からの助成を得て、開発済みのプログラムや鑑賞ツール（さわるコレクション）を活用したワークショップなどを開催したほか、これまでの事業を振り返り、全国の美術館で行われている「視覚だけに依らない鑑賞活動」の成果や課題点に関する情報共有と更なる考察の場として「研究会」を開催し、ネットワークの構築に努めた。また文化庁委託事業「令和4年度障害者等による文化芸術活動推進事業」として、京都府・京都市内の文化施設が連携し開催した「『CONNECT⇄』～アートで ころを こねこねしよう～」に参加した。



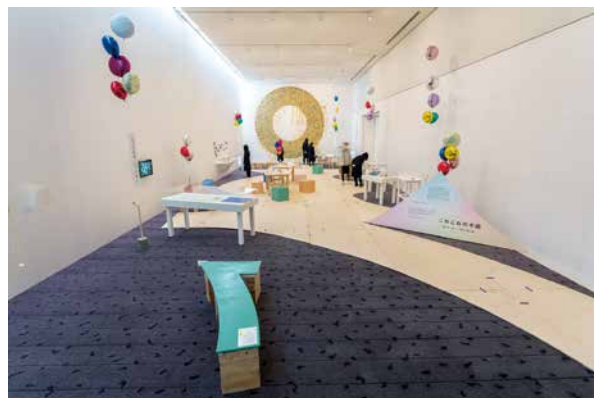
「ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡ー市民が創った珠玉のコレクション」会場風景  
撮影：河田憲政



「没後50年 鎗木清方展」会場風景  
撮影：河田憲政



「リュウユーフィンランドのテキスタイル：トゥオマス・ソパネン・コレクション」会場風景  
撮影：消忠之



「『CONNECT⇄』～アートで ころを こねこねしよう～」展示風景



# 国立映画アーカイブ

上映活動としては、国立映画アーカイブが新たに発掘・復元した映画を紹介する企画「発掘された映画たち2022」、米国映画芸術科学アカデミーの映画保存機関であるアカデミー・フィルム・アーカイブの所蔵作品を幅広く紹介する企画「アカデミー・フィルム・アーカイブ 映画コレクション」、令和4年度からスタートした新たな上映企画「日本の女性映画人(1)——無声映画期から1960年代まで」を実施した。

展示活動としては、国立映画アーカイブ所蔵品のほか日本各地の資料館や個人のもとで保管されている映画興行資料を活用した「日本の映画館」や、在野の黒澤明映画の研究家チームとのコラボレーションにより最新研究の成果を提示できた「脚本家 黒澤明」、そして特定の映画ジャンルを集中的に取り上げる「ポスターでみる映画史」シリーズの第4弾として、ポスターだけでなく各作品の映画音楽にも着目した「恐怖映画の世界」を開催した。

教育普及事業としては、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベントにて、戦前日本の映画検閲で切除されたシーンの断片集を初公開し、当時の映画検閲の制度や切除フィルムの資料的価値を、上映と専門家による講演、断片集の映像調査結果をまとめた配布資料を通して考察した。断片集は後日YouTubeチャンネルでも公開し大きな反響を得た。その他、恒例の「こども映画館」および共催企画「V4中央ヨーロッパ子ども映画祭」を開催し、コロナ禍で2年続けて開催できなかった「NFAJアーカイブセミナー」も、協同組合日本映画・テレビ録音協会との共催で開催することができた。

館外共催事業・アウトリーチ活動としては、磁気テープ映像の危機と救出を訴えた国立美術館のクラウドファンディング「『わが映画人生』デジタルファイル化プロジェクト」でデジタルファイル化した110篇から、10本のDCPを作成し、初の一般公開上映会を、京都文化博物館との共催で同館フィルムシアターにて開催した。

また、コロナ禍の試みとして、館の公式YouTubeチャンネルからの発信に力点を置いたほか、各展覧会と上映会の広報コンテンツの作成、『関東大震災映像デジタルアーカイブ』サイトでの公開作品の配信、「フィルムは記録する 一国立映画アーカイブ歴史映像ポータル」サイトの作成と配信等を行った。



「日本の女性映画人(1)  
——無声映画期から1960年代まで」  
上映プログラム



「ポスターでみる映画史 Part 4  
恐怖映画の世界」チラシ



WEBサイト「フィルムは記録する」



ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」  
記念特別イベント  
「[上映と講演] 戦前日本の映画検閲  
——内務省 切除フィルムからみる——」チラシ



# 国立西洋美術館

令和2年10月からの館内施設整備のための全館休館を経て、4月にリニューアルオープンした。当初は常設展と小企画展のみの開催であったが、多くの入館者があった。常設展は年間を通じてほぼ目標入館者数どおりとなったが、新型コロナウイルスの影響が残る中で、感染蔓延以前とほぼ同じ数の入館者を迎えることができた。

企画展「国立西洋美術館リニューアルオープン記念 自然と人のダイアログ フリードリヒ・モネ、ゴッホからリヒターまで」展、「ピカソとその時代 ベルリン国立ベルクグリュン美術館展」及び「憧憬の地 ブルターニューモネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷」を開催した。いずれの企画展も新型コロナウイルス感染症対策のための日時指定制や入場者数制限にもかかわらず、目標入館者数を上回る入館者数となっている。

常設展の展示室内において小企画展を5回開催し、好評を博した。また、新しい試みとして、Collection in Focusという小展示コーナーを展示室内に複数設けた。

教育普及事業を通年で実施し、ボランティア・スタッフの美術トークなども再開した。障がい者に向けてギャラリートークを行うなど新たな取組も行ったほか、小企画展では、東京藝術大学の協力のもとでワークショップを開催したり、劇団シェイクスピアシアターによる翻案劇を上演するなど、様々なプログラムを実施した。

広報に関しては、4月に新しいウェブサイトを稼働し、SNSの活用などを進めた。

自己収入増の取組として、小企画展等への協賛を得ることができたほか、川崎重工業株式会社と令和5年度からのパートナーシップ協定を締結し、国立西洋美術館の実施する事業に対し支援を受けることとなった。



企画展「憧憬の地 ブルターニューモネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷」  
シャルル・コッテ《悲嘆、海の犠牲者》 1908-09年 国立西洋美術館  
(松方コレクション)



演劇パフォーマンス〈版画で観て、舞台上で聞く『ハムレット』〉



SNS広報事例：Instagram（2022年6月開設）での  
#5WomenArtistsプロジェクト第4回投稿（2023年3月23日）



国立西洋美術館と川崎重工業株式会社 パートナーシップ協定締結  
(2023年3月17日)

# 国立国際美術館

展覧会においては、企画展3本とコレクション展3本を開催した。なかでも大規模な企画展「すべて未知の世界へーGUTAI 分化と統合」を、隣接する大阪中之島美術館と共同企画、共同開催という非常に珍しい枠組みにより実施した。関西の若手の前衛作家たちによって1954年から72年まで活動した「具体美術協会（具体）」を取り上げ、「分化」と「統合」という2つのテーマによる切り口で、これまでとは異なる研究分析がなされ展覧会として結実した。戦後日本の美術動向において、「具体」は海外でも大きな評価を得ていることもあり、国内外の美術関係者からの本展への注目も大きかった。

また、広島県立美術館と大分県立美術館を会場として「令和4年度国立美術館巡回展 国立国際美術館コレクション 現代アートの100年」を開催した。国立国際美術館が所蔵する国内外の作家による約70点で、20世紀初頭より今日までの美術の100年の動向を辿り、各会場ですべて予想を上回る入館者を集めた。

夏期には空調設備更新工事による臨時休館があったが、この期間を活用して「NMAO トーク・マラソン2022」を実施した。館長以下ほぼ全ての研究員が、自らの研究テーマや過去に実施した事業に関連あるいは現在抱いている興味関心領域に基づいた対談相手を招き、連続トークを実施する2日間のイベントで、オンラインを通じても視聴可能であったために国内外からの視聴があった。多彩なゲストを迎えるプログラムにより、これまでの研究の蓄積や今後の活動の萌芽を示すことができた。

教育普及活動では、コロナ禍において活用してきたオンラインプログラムも継続して実施した。年齢や障害にかかわらず、誰でも鑑賞含めた美術館のアクティビティに参加できる「みる+（プラス）」などのプログラムを開催することで、多様な来館者にアプローチした。



「すべて未知の世界へーGUTAI 分化と統合」会場風景  
撮影：福永一夫



「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年」会場風景  
(広島県立美術館)



「NMAO トーク・マラソン2022」会場風景



みる+（プラス）自由に参加！「50個の『+』から絵をかこう」  
ワークショップ活動風景



# 国立新美術館

令和4年度に開催した展覧会では、西洋のオールドマスターから、20世紀美術、現代美術まで、多様なジャンルの芸術を紹介することができた。開館15周年記念事業として開催した「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」では、屋外展示場も活用した充実の展示に加え、内外の専門家を招いたシンポジウムやトークを多数実施し、多くの来館者が訪れた。また、「国立新美術館所蔵資料に見る1970年代の美術—— Do it! わたしの日常が美術になる」は開館以来初となる所蔵資料展示の試みとして幅広い鑑賞者から反響を得たほか、国内外の研究者からの資料調査を促した。

新しく立ち上げた、パブリックスペースを活用した小企画シリーズ「NACT View」では、二人の若手作家を取り上げ、現代美術と社会を結ぶ展示の可能性を示すことができた。

教育普及事業においては、中高生を対象とした新しい事業「NACT YOUTH PROJECT 新美塾！」を立ち上げたほか、美術に関する学術分野に関心のある方へ向けた連続講座を開催するなど、幅広い人々に対して学習の機会を提供した。

コロナ禍で減少していた休館日の施設貸出が徐々に回復し、1階エントランスホールや正面玄関広場、野外テラス等をイベントや映画撮影等に貸与することで、施設の活用にも取り組んだ。



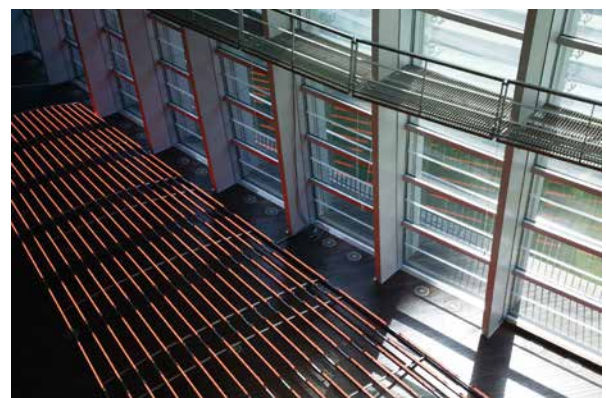
「ワニがまわる タムラサトル」会場風景  
撮影：金田幸三



「ルートヴィヒ美術館展 20世紀美術の軌跡—市民が創った珠玉のコレクション」会場風景



「国立新美術館所蔵資料に見る1970年代の美術—— Do it! わたしの日常が美術になる」会場風景  
撮影：吉田志帆、根本健太郎



「NACT View 01 玉山拓郎 Museum Static Lights」会場風景  
撮影：大町晃平

# 4

## 展覧会活動

### 4—1 所蔵作品展

所蔵作品展の開催は、国立美術館の基幹となる活動のひとつであり、各館とも、漫然と名作を並べて展示するのではなく、調査研究の成果に基づき、季節に合わせた作品選定、企画展と連動したテーマ展示など時宜をとらえた企画を多く開催するなど、様々な工夫を凝らして鑑賞意欲や来館動機を高めるとともに、来館者の満足度の向上に努め、満足度調査結果及び入館者数のいずれについても前年度を上回る結果となった。

| 館 名       |       | 開催日数  | 展示替回数 | 入館者数    | 満足度 <sup>※1</sup> |
|-----------|-------|-------|-------|---------|-------------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 266   | 5     | 250,740 | 86.2%             |
|           | 国立工芸館 | 179   | 3     | 38,579  | 89.5%             |
| 京都国立近代美術館 |       | 299   | 5     | 128,660 | 71.6%             |
| 国立西洋美術館   |       | 251   | 3     | 462,463 | 92.3%             |
| 国立国際美術館   |       | 132   | 3     | 69,618  | 71.0%             |
| 合 計       |       | 1,127 | 19    | 950,060 | 82.1%             |

※1 「満足度」とは、満足度調査における「良い」以上の回答率を指し、合計欄に記載の値は平均値である。以下同じ。



# 東京国立近代美術館

## 〈本館〉

19世紀末から今日に至る日本の近現代美術の流れをわかりやすく伝えるとともに、部屋ごとにテーマを設けて各時代の美術を新鮮な切り口から提示した。

令和4年12月1日に開館70周年を迎えることから、令和4年度は特徴的な寄贈作品に光を当てる「ギフト」など、様々なテーマ立てで70年間を振り返るとともに、未来を展望するような企画を行った。また、開館1周年時に開催した展覧会を振り返る企画「プレイバック『抽象と幻想』展(1953-1954)」を行った。再現VRの駆使、情報資料(ライブラリ)や教育普及との協働など新機軸を打ち出し、メディアでも取り上げられるなど話題を呼んだ。さらに近年力を入れているコレクション展内での特集展示に精力的に取り組み、上述の「プレイバック」展のほか、1950年代から60年代にかけての絵画と漫画との関係に焦点をあてた「白い漫画、黒い漫画」や、詩にまつわる作品を集め、詩と造形の交流や連帯を紹介する「ぼえむの言い分」などを開催した。



「プレイバック『抽象と幻想』展(1953-1954)」会場風景  
撮影：大谷一郎



「白い漫画、黒い漫画」会場風景  
撮影：大谷一郎

## 〈国立工芸館〉

「こどもとおとなの自由研究 工芸の○△□×展」は工芸作品およびその素材に潜む○や△といった単純形態を探し出そうとすることで、作品をじっくり鑑賞してもらおうと意図した展覧会であった。これは以前から注力してきたこどもにわかりやすく工芸を伝えることをテーマとした一連のシリーズの一環で、令和4年度より来館者層にあわせ内容をマイナーチェンジしている。「ジャンルレス工芸展」では昨今の潮流のひとつである現代アートと工芸の境界線上にある作品や、素材や技術だけでなくモチーフに焦点を合わせて紹介することで新たな作品の見方を提示した。「工芸館と旅する世界展—外国の工芸とデザインを中心に」では国立工芸館が所蔵する外国作品を石川移転後初めてまとめて紹介し、所蔵作品の幅広さを提示した。



「ジャンルレス工芸展」会場風景



「工芸館と旅する世界展—外国の工芸とデザインを中心に」会場風景

# 京都国立近代美術館

令和4年度の所蔵作品展では、企画展の内容に合わせたテーマ設定の展示を数多く実施できた。例えば、「サロン！雅と俗―京の大家と知られざる大坂画壇」展の会期には、「上方と洋画」と題して関西の洋画を紹介するコーナーを設け、企画展で近代日本画を紹介しているのに対して、同時代の洋画作品を展示した。「竊木清方展」の会期では、企画展で美しい着物を着た美人画が並ぶのに対し、「近代工芸の着物」及び「飾りと装いの工芸」と題して工芸作品にみる着物や装飾品の美しさを紹介する展示を行った。SNS上では、企画展と一緒に所蔵作品展を見るべきという趣旨の好意的な感想が多かった。また、「珠玉の日本画」と題して日本画コレクションの名品を並べたが、こちらは普段は館外に貸し出していることが多い日本画コレクションが、コロナ禍を理由にした借用キャンセルなどが重なったことから、偶然にもまとまって展示できることをチャンスと捉えたものであった。充実した形で京都画壇の日本画を展示することができ、好意的な感想が多かった。



「近代工芸の着物」会場風景



「珠玉の日本画」会場風景

# 国立西洋美術館

約1年半の休館後のリニューアルオープンに合わせ、所蔵作品展示も一新させた。おおよそ制作年代の順に沿いつつも、キリスト伝、肖像画、聖人像、風景画といったテーマごとに作品を配置することで、より分かりやすい展示となった。また、特に新しい試みとして、Collection in Focusという小展示コーナーを展示室内に複数設けた。これは一つのテーマのもとに数点の作品を展示し、解説する試みで、時に思いもよらぬ組み合わせによって、コレクションの新たな魅力を伝えることとなった。また、科学調査の結果や作品に用いられた顔料等を作品と共に展示することで、技法など、通常とは別の側面からの作品理解を促した。

常設展示室内ではこのほか、数十点の作品を用いた小企画展を計5回開催した。うち1回は通常小企画展を行わない空間を用いて、大成建設から寄託を受けているル・コルビュジエの素描や油彩作品を展覧し、この建築家晩年の芸術観を紹介した。その結果、国立西洋美術館本館を設計した際の彼の考えをより深く知ることにつながった。



「Collection in FOCUS カルロ・ドルチの素材調査」展示風景



小企画展「調和にむかって：ル・コルビュジエ芸術の第二次マシン・エイジ―大成建設コレクションより」展示風景  
撮影：上野則宏

# 国立国際美術館

令和3年度からの「コレクション2」に続き、「コレクション1 遠い場所/近い場所」と題した所蔵作品展を開催した。東欧からロシアに関連する作家、また新収蔵を中心とした沖縄出身の作家の作品をそれぞれ小特集で構成することで、社会の大きな変化の中で芸術を生み出してきた作家たちや、今なお戦後の難しい問題をはらむ沖縄の現実に関わり作家が向きあっているのかを提示することができた。展示に際しては、インスタレーション、映像など多彩な作品を含め、先端的な表現の動向を示すことができるように工夫した。

「コレクション2 特集展示：メル・ボックナー」では、令和3年度の特別予算により購入したメル・ボックナーの新収蔵作品を展示した。あわせて河原温、荒川修作、ヨーコ・オノ、高松次郎といった日本人作家たちによる作品も加えコンセプチュアル・アートの同時代的な動向を紹介するとともに、パイオニア的存在であるボックナーの作品理解を深める一助になった。また所蔵作品だけではなく、豊田市美術館が所蔵する記念碑的なボックナーの《必ずしも芸術として見られる必要のないワーキング・ドローイングとそのほかの視覚的なもの》も借用して展示することで、深度のある構成を実現できた。



「コレクション1 遠い場所／近い場所」会場風景  
撮影：福永一夫



「コレクション2 特集展示：メル・ボックナー」会場風景  
撮影：木奥恵三



## 4—2 企画展

各館において、調査研究の成果に基づき、世界の美術の新たな動向を紹介する展覧会や我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介し、国際的な美術動向に位置付ける展覧会、メディアアート等の先端的な展覧会、作家・作品の再発見、再評価、我が国に所在するコレクションの積極的活用を目指した展覧会を開催した。海外の美術館との共同企画や国際的に評価されている現代作家の最大規模の個展を行うなど、意欲的な取組を行った。

来館者満足度調査及び入館者数とも前年度を上回り、いずれも美術振興の拠点として国立美術館にふさわしい魅力と質の高さを備えた展覧会であった。

| 館 名       |       | 実施回数 | 開催日数  | 入館者数      | 満足度   |
|-----------|-------|------|-------|-----------|-------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 4    | 231   | 302,065   | 89.5% |
|           | 国立工芸館 | 2    | 76    | 27,721    | 87.8% |
| 京都国立近代美術館 |       | 5    | 249   | 153,413   | 90.8% |
| 国立西洋美術館   |       | 3    | 190   | 476,584   | 85.4% |
| 国立国際美術館   |       | 3    | 157   | 101,415   | 80.0% |
| 国立新美術館    |       | 7    | 362   | 614,502   | 91.0% |
| 合 計       |       | 24   | 1,265 | 1,675,700 | 87.0% |

# 東京国立近代美術館

## 〈本館〉

「大竹伸朗展」は、1980年代初頭にデビューして以来、絵画、版画、素描、彫刻、インスタレーション、デザイン、映像、絵本、音楽、エッセイなど広汎な表現を手掛け、近年ではドクメンタやヴェネチア・ビエンナーレなど主要な国際美術展への参加が続き、現代日本を代表する美術家として確固たる地位を築いている大竹伸朗（1955年生まれ）の東京都現代美術館における大回顧展「全景」（2006年）以来の回顧展となった。総数400点を超える大量の作品が展示室を埋め尽くすダイナミックな展示が実現し、比較的天井高が低い東京国立近代美術館の展示室で現代美術を有効に見せる可能性を示した。

「東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密」は、明治以降の美術の重要文化財を総覧する史上初の展覧会となった。重要文化財に指定された作品の評価の変遷を辿ることで、その時々々の価値観を反映する日本近代美術史生成のプロセスに迫りつつ、第一級の作品群によって国内外に日本の近代美術の魅力を発信した。重要文化財は保護の観点から貸出や公開に限られるため、本展はそれらをまとめて見ることができる得がたい機会となり、その点をアピールすることで、多くの入館者を獲得することができた。また、本展を見た後に所蔵作品展を併せて見る観覧者数も多く、東京国立近代美術館のコレクションの魅力を多くの来館者に認知してもらうことができた。

| 展覧会名                          | 会 期                            | 開催日数       | 入館者数                | 共 催 者                    | 満足度   |
|-------------------------------|--------------------------------|------------|---------------------|--------------------------|-------|
| 没後50年 鎗木清方展                   | (R4.3.18)<br>R4.4.1 ～ R4.5.8   | 34<br>(47) | 61,750<br>(75,341)  | 毎日新聞社、NHK、<br>NHKプロモーション | 93.5% |
| ゲルハルト・リヒター展                   | R4.6.7 ～ R4.10.2               | 103        | 138,831             | 朝日新聞社                    | 89.0% |
| 大竹伸朗展                         | R4.11.1 ～ R5.2.5               | 80         | 76,470              | 日本テレビ放送網                 | 86.2% |
| 東京国立近代美術館70周年<br>記念展 重要文化財の秘密 | R5.3.17 ～ R5.3.31<br>(R5.5.14) | 14<br>(54) | 25,014<br>(142,071) | 毎日新聞社、<br>日本経済新聞社        | —     |
| 合 計                           |                                | 231        | 302,065             |                          | 89.5% |

注 （ ）内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含めない。



「大竹伸朗展」展示風景  
撮影：木奥恵三



「東京国立近代美術館70周年記念展 重要文化財の秘密」展示風景  
撮影：木奥恵三

## 〈国立工芸館〉

「未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展」は、日本の伝統陶芸の歴史を築き上げてきた日本工芸会陶芸部会の活動が50周年を迎えたのを記念して企画した。展覧会では、「歩み」と「確立・展開」、そして「未来へ」と繋がる歴史的な流れ3章立てとし、各章には2つのコラムを設けて、特徴を示す動向や情勢などを伝えた。作品は、伝統の技を伝え支えてきた歴代の人間国宝の名品はもとより、日本工芸会と勢力を二分する日展の代表的な陶芸家の代表作や、陶芸部会以外でありながらも伝統の世界に刺激を与え続けている陶芸家の優品、さらには新進作家の最新作までを展示紹介した。伝統を幅広くとらえることで伝統工芸に見る「個性」を考える場となるとともに、未来への姿をも感じられる機会となった。

「ポケモン×工芸展―美とわざの大発見―」は、最先端のメディアミックスの分野で世界的に注目を集めている「ポケモン」という表現様態と、「工芸」という伝統に裏打ちされた分野の特質を融合させた新たな試みを示す展覧会として企画した。重要無形文化財保持者から新進気鋭までの20名のアーティストによる新作72点は、「ポケモン」を入口として、さまざまな素材・技法からつくり出される質感を引き出し、それを表現と一体化させて、工芸の魅力の幅広さと奥深さを来館者に伝える機会となった。工芸の新しい可能性とともに、ポケモンの世界の新たな一面も同時に楽しめると話題となった。

| 展覧会名               | 会 期                            | 開催日数       | 入館者数               | 共 催 者 | 満足度   |
|--------------------|--------------------------------|------------|--------------------|-------|-------|
| 未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展 | R4.4.5 ～ R4.6.19               | 66         | 14,533             | —     | 87.8% |
| ポケモン×工芸展―美とわざの大発見― | R5.3.21 ～ R5.3.31<br>(R5.6.11) | 10<br>(72) | 13,188<br>(95,158) | —     | —     |
| 合 計                |                                | 76         | 27,721             |       | 87.8% |

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含めない。



「未来へつなぐ陶芸―伝統工芸のチカラ展」会場風景



「ポケモン×工芸展―美とわざの大発見―」会場風景  
2023 Pokémon. ©1995-2023 Nintendo/Creatures Inc. /GAME FREAK inc.  
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。



# 京都国立近代美術館

「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」は、彫刻家・清水九兵衛と陶芸家・清水六兵衛の二つの顔を持つ九兵衛／六兵衛を一人の造形作家としてその生涯を検証する初めての試みであった。展覧会では、清水の九兵衛を名乗る以前の陶芸作品、九兵衛としての彫刻作品、七代六兵衛としての陶芸作品のほか、清水自身が撮影した写真作品、彫刻制作のための図面やマケットなど、168件の作品および関連資料を紹介した。また、展覧会にあわせて京都市内に残る九兵衛彫刻を紹介する「京の街角てくてく 九兵衛さんマップ」を作成し、地域の文化遺産としての九兵衛作品の認知度をあげることができた。

「開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌—絵画、演劇、映画を越境する個性」は、大正から昭和にかけて日本画家として、そして時代劇映画の衣裳考証家として活躍した甲斐荘楠音（1894-1978）の回顧展である。京都国立近代美術館が26年前に開催した回顧展では日本画作品のみを展示したのに対し、今回は、彼が手がけた時代劇映画の衣裳約40領を、関連のポスター等とともに取り上げたほか、彼が遺した膨大な写真やスケッチをも一挙公開し、絵画・写真・映画という3つの分野をまたぐ展示を試み、絵画と映画をつなぐ演劇や身体への彼の関心をも視野に入れた構成とした。一般に広く知られているとは言い難く、美術ファンの間でも一側面しか知られていなかった作家についてその全貌を明らかにするとともに、絵画・写真・演劇／映画というジャンル間の越境性や性における越境性について理解を促すことにも繋がった。

| 展覧会名                                            | 会 期                           | 開催日数       | 入館者数               | 共 催 者                                           | 満足度   |
|-------------------------------------------------|-------------------------------|------------|--------------------|-------------------------------------------------|-------|
| サロン! 雅と俗<br>—京の大家と知られざる大坂画壇                     | (R4.3.23)<br>R4.4.1 ～ R4.5.8  | 34<br>(42) | 9,996<br>(11,740)  | 朝日新聞社                                           | 87.5% |
| 没後50年 鎗木清方展                                     | R4.5.27 ～ R4.7.10             | 39         | 72,137             | 毎日新聞社、<br>NHK京都放送局、<br>NHKエンタープライズ近畿            | 95.3% |
| 生誕100年<br>清水九兵衛／六兵衛                             | R4.7.30 ～ R4.9.25             | 50         | 8,696              | 京都新聞                                            | 91.8% |
| ルートヴィヒ美術館展<br>20世紀美術の軌跡<br>—市民が創った珠玉の<br>コレクション | R4.10.14 ～ R5.1.22            | 84         | 44,186             | ルートヴィヒ美術館、<br>日本経済新聞社、<br>テレビ大阪、BS-TBS、<br>京都新聞 | 82.2% |
| 開館60周年記念<br>甲斐荘楠音の全貌<br>—絵画、演劇、映画を<br>越境する個性    | R5.2.11 ～ R5.3.31<br>(R5.4.9) | 42<br>(50) | 18,398<br>(23,909) | 日本経済新聞社、<br>京都新聞                                | —     |
| 合 計                                             |                               | 249        | 153,413            |                                                 | 90.8% |

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含まない。



「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」会場風景  
撮影：今村裕司



「開館60周年記念 甲斐荘楠音の全貌  
—絵画、演劇、映画を越境する個性」会場風景  
撮影：河田憲政

# 国立西洋美術館

「国立西洋美術館リニューアルオープン記念 自然と人のダイアログ フリードリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで」は、ドイツのフォルクヴァング美術館とお互いのコレクションを用いて協働して作り上げた2部構成の展覧会企画の後期にあたる。展示の中心は19-20世紀初頭の絵画であったが、フォルクヴァング美術館の写真作品や現代アート作品を加えることで、国立西洋美術館のコレクションに新たな角度から光をあててその魅力の再発見につなげることを目指した。

「ピカソとその時代 ベルリン国立ベルクグリュン美術館展」は、ベルリン国立ベルクグリュン美術館の改修を機に実現した。ドイツ生まれの美術商でコレクターのハインツ・ベルクグリュンが蒐集した比類のないコレクションを、ベルリン国立ベルクグリュン美術館の外では初めて包括的に紹介する貴重な機会となった。国立西洋美術館では、常設展示の核となる19世紀フランス美術やオールド・マスターの企画展が主流であるが、ピカソやマティスといったモダン・マスターに焦点をあてた本展の開催は、従来の鑑賞者層よりも若年の鑑賞者の関心を広く集めることができた。また、20世紀美術の専門家が多数参加し、出品作品108点の詳細な作品解説を含む展覧会カタログも、学術的に優れた成果として評判を得た。

| 展覧会名                                                               | 会 期                            | 開催日数       | 入館者数                | 共 催 者                                       | 満足度   |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------|------------|---------------------|---------------------------------------------|-------|
| 国立西洋美術館<br>リニューアルオープン記念<br>自然と人のダイアログ<br>フリードリヒ、モネ、ゴッホから<br>リヒターまで | R4.6.4 ~ R4.9.11               | 87         | 221,847             | 読売新聞社、NHK、<br>NHKプロモーション                    | 80.6% |
| ピカソとその時代<br>ベルリン国立ベルクグリュン<br>美術館展                                  | R4.10.8 ~ R5.1.22              | 90         | 228,580             | ベルリン国立ベルク<br>グリュン美術館、<br>東京新聞、TBS、<br>共同通信社 | 90.0% |
| 憧憬の地 ブルターニュ<br>ーモネ、ゴッガン、黒田清輝らが<br>見た異郷                             | R5.3.18 ~ R5.3.31<br>(R5.6.11) | 13<br>(76) | 26,157<br>(163,253) | TBS、読売新聞社                                   | —     |
| 合 計                                                                |                                | 190        | 476,584             |                                             | 85.4% |

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含めない。



企画展「自然と人のダイアログ フリードリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで」展示風景  
撮影：上野則宏



企画展「ピカソとその時代 ベルリン国立ベルクグリュン美術館展」  
ポール・セザンヌ《舟にて》1900-06年 国立西洋美術館  
(松方コレクション)

# 国立国際美術館

「感覚の領域 今、「経験する」ということ」は、表現の手法も素材も技法も異なる7名の作家を個展形式で紹介することによって、各々の特色を際立たせ、各作家のテーマ性と独創性への理解を深めてもらえるよう試みた。また、来館者には、さまざまな実際の経験（体験）の機会を提供することで、現代美術の魅力を堪能してもらうと同時に、リアルな経験の場としての美術館のもつ可能性を認識してもらえるよう努めた。展示会場では来館者が積極的に作品へ関与する様子が見受けられ、こうした目的は概ね達成されたものと思われる。

「すべて未知の世界へ — G U T A I 分化と統合」は、具体美術協会の18年に及ぶ軌跡を、前・中・後期といった従来の単線的な図式に落とし込むのではなく、むしろ輻輳的に捉えなおそうとした。国立国際美術館では集団全体の流れをマクロな視点から捉えつつ、大阪中之島美術館では各会員たちの手がけた作品の見方、体験の内実についてミクロな分析をほどこすといった具合に、異なる視点からこの動向にアプローチすることで、従来とは異なる価値付けができたと考えている。また、1960年代以後の活動に重点を置いていたことも本展覧会の特徴で、従来「衰退期」とも位置づけられうるこの時期の仕事に新たな光を当てたことは、結果として、具体的評価を総合的に高めることにも繋がった。歴史的な分類・整理を超え、「いま、具体の作品を見ることの意義」について積極的な議論を喚起できた点で、本展覧会はこれまでの具体展とは一線を画している。

| 展覧会名                              | 会 期                           | 開催日数       | 入館者数                | 共 催 者                                           | 満足度   |
|-----------------------------------|-------------------------------|------------|---------------------|-------------------------------------------------|-------|
| 感覚の領域<br>今、「経験する」ということ            | (R4.2.8)<br>R4.4.1 ~ R4.5.22  | 46<br>(91) | 15,478<br>(28,884)  |                                                 | 80.3% |
| すべて未知の世界へ<br>— G U T A I 分化と統合    | R4.10.22 ~ R5.1.9             | 63         | 19,307              | 大阪中之島美術館、<br>朝日新聞社、MBSテレビ                       | 79.6% |
| ピカソとその時代<br>ベルリン国立ベルクグリュン<br>美術館展 | R5.2.4 ~ R5.3.31<br>(R5.5.21) | 48<br>(93) | 66,630<br>(139,461) | ベルリン国立ベルク<br>グリュン美術館、<br>産経新聞社、<br>MBSテレビ、共同通信社 | —     |
| 合 計                               |                               | 157        | 101,415             |                                                 | 80.0% |

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含めない。



「感覚の領域 今、「経験する」ということ」会場風景  
撮影：加藤成文



「ピカソとその時代 ベルリン国立ベルクグリュン美術館展」会場風景  
撮影：加藤成文

# 国立新美術館

「メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年」は、メトロポリタン美術館の常設展示室の改修を機に実現し、通常は貸し出されない常設展の主要作品が出品された。出品作65点は、各時代・国を代表する画家たちの最も質の高い作品ばかりであり、500年間の西洋絵画史を最良の作品を通して体感する貴重な機会を提供できた。本展において特筆すべきは、90年代頃まで「名品」と見なされなかった18世紀末フランスの女性画家の作品を紹介したことである。これは、70年代に始まったジェンダー論からの美術史の見直しを踏まえている。「名品展」はブロックバスター展と批判されがちだが、その出品内容には美術史研究の最新の方法論・現代的視点が反映され、偏りや欠けていた視点が補なわれる。その意義を、本展では会場の解説や音声ガイドの原稿を工夫し、鑑賞者に伝えることができた。

「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」について、李禹煥が主導した1970年代に生まれた美術運動である『もの派』は、2010年代に主にアメリカとフランスの主要美術館で展覧会が立て続けに開催されたことで、国際的文脈で確固たる戦後美術の重要な運動として地位を築いた。こうした機運の中で、東京で李禹煥の過去最大の個展を開催したことは、日本並びにアジアの現代美術の国際的発信に大きく寄与したと考えられる。また、絵画と彫刻を大きく二つのパートに分ける展示構成は、国内外の幅広い美術関係者、コレクター、評論家、キュレーター、批評家から強い関心が寄せられた。

| 展覧会名                                            | 会 期                           | 開催日数       | 入館者数                 | 共 催 者                                                       | 満足度   |
|-------------------------------------------------|-------------------------------|------------|----------------------|-------------------------------------------------------------|-------|
| メトロポリタン美術館展<br>西洋絵画の500年                        | (R4.2.9)<br>R4.4.1 ~ R4.5.30  | 53<br>(97) | 208,610<br>(333,669) | メトロポリタン美術館、<br>日本経済新聞社、<br>テレビ東京、<br>BSテレビ東京、TBS、<br>BS-TBS | 91.0% |
| ダミアン・ハースト 桜                                     | (R4.3.2)<br>R4.4.1 ~ R4.5.23  | 47<br>(73) | 81,532<br>(125,485)  | カルティエ現代美術財団                                                 | 89.7% |
| ワニがまわる タムラサトル                                   | R4.6.15 ~ R4.7.18             | 30         | 37,088               |                                                             | 95.4% |
| ルートヴィヒ美術館展<br>20世紀美術の軌跡<br>—市民が創った<br>珠玉のコレクション | R4.6.29 ~ R4.9.26             | 78         | 70,224               | ルートヴィヒ美術館、<br>日本経済新聞社、TBS、<br>BS-TBS                        | 83.8% |
| 国立新美術館開館15周年記念<br>李禹煥                           | R4.8.10 ~ R4.11.7             | 78         | 66,188               | 朝日新聞社、独立行政法人<br>日本芸術文化振興会、<br>文化庁                           | 94.7% |
| DOMANI・明日展 2022-23                              | R4.11.19 ~ R5.1.29            | 49         | 22,639               | 文化庁                                                         | 91.0% |
| ルーヴル美術館展 愛を描く                                   | R5.3.1 ~ R5.3.31<br>(R5.6.12) | 27<br>(91) | 128,221<br>(450,531) | ルーヴル美術館、<br>日本テレビ放送網、<br>読売新聞社、BS日テレ、<br>ニッポン放送             | —     |
| 合 計                                             |                               | 362        | 614,502              |                                                             | 91.0% |

注 ( )内は会期全体の数値を参考として示しており、それぞれの合計には含まない。



「メトロポリタン美術館展 西洋絵画の500年」会場風景  
撮影：上野則宏



「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」会場風景  
撮影：中川周



## 4—3 映画上映等(国立映画アーカイブ)

### 上映会

| タイトル                                 | 会 期                                           | 上映日数       | 上映回数        | 入館者数              | 共 催 者                                                    | 満足度    |
|--------------------------------------|-----------------------------------------------|------------|-------------|-------------------|----------------------------------------------------------|--------|
| 長瀬記念ホール OZU                          |                                               |            |             |                   |                                                          |        |
| 1990年代日本映画——<br>躍動する個の時代             | (R4.2.1)<br>R4.4.5 ～ R4.5.1                   | 24<br>(54) | 54<br>(114) | 8,760<br>(16,983) | —                                                        | 93.2%  |
| 発掘された映画たち2022                        | R4.5.3 ～ R4.5.22                              | 18         | 38          | 5,676             | —                                                        | 85.7%  |
| EUフィルムデーズ2022                        | R4.5.28 ～ R4.6.23                             | 23         | 54          | 7,388             | 駐日欧州連合代表部、<br>在日EU大使館・文化<br>機関                           | 96.1%  |
| 東宝の90年<br>モダンと革新の映画史<br>(1)(2)       | (1)R4.6.24 ～ R4.7.31<br>(2)R4.10.4 ～ R4.12.25 | 96         | 209         | 26,282            | —                                                        | 94.7%  |
| 小ホール                                 |                                               |            |             |                   |                                                          |        |
| NFAJ コレクション<br>2022 春                | R4.5.6 ～ R4.5.22                              | 9          | 18          | 1,713             | —                                                        | 88.2%  |
| 生誕120年<br>映画監督 山本嘉次郎                 | R4.8.2 ～ R4.8.28                              | 22         | 47          | 5,650             | —                                                        | 90.0%  |
| サイレントシネマ・デイズ<br>2022                 | R4.8.30 ～ R4.9.4                              | 6          | 12          | 1,217             | —                                                        | 100.0% |
| 第44回<br>ぴあフィルムフェスティバル                | R4.9.10 ～ R4.9.25                             | 14         | 43          | 4,409             | 一般社団法人PFF、<br>公益財団法人川喜多<br>記念映画文化財団、<br>公益財団法人ユニ<br>ジャパン | 92.7%  |
| 長谷川和彦と<br>ディレクターズ・カンパニー              | R4.10.25 ～ R4.10.30                           | 6          | 13          | 1,447             | 東京国際映画祭                                                  | 100.0% |
| アカデミー・フィルム・<br>アーカイブ<br>映画コレクション     | R5.1.4 ～ R5.2.5                               | 29         | 63          | 6,740             | アカデミー・フィルム・<br>アーカイブ                                     | 95.5%  |
| 日本の女性映画人(1)<br>——無声映画期から<br>1960年代まで | R5.2.7 ～ R5.3.26                              | 41         | 88          | 8,809             | —                                                        | 92.9%  |
| 合 計                                  |                                               | 288        | 639         | 78,091            |                                                          | 95.6%  |

### 展覧会

| 展覧会名                         | 会 期                | 日 数 | 入館者数   | 共 催 者 | 満足度   |
|------------------------------|--------------------|-----|--------|-------|-------|
| 日本の映画館                       | R4.4.12 ～ R4.7.17  | 80  | 6,639  | —     | 90.3% |
| 脚本家 黒澤明                      | R4.8.2 ～ R4.11.27  | 92  | 5,847  | —     | 96.5% |
| ポスターでみる映画史 Part 4<br>恐怖映画の世界 | R4.12.13 ～ R5.3.26 | 83  | 7,816  | —     | 95.2% |
| 合 計                          |                    | 255 | 20,302 |       | 93.8% |

## 上映会

### 〈長瀬記念ホール OZU〉



「東宝の90年 モダンと革新の映画史 (1)」  
上映プログラム



「発掘された映画たち2022」  
上映プログラム

### 〈小ホール〉



「生誕120年 映画監督 山本嘉次郎」  
上映プログラム



「アカデミー・フィルム・アーカイブ  
映画コレクション」上映プログラム

## 展覧会



「脚本家 黒澤明」会場風景



「NFAコレクションでみる 日本映画の歴史」会場風景

## 4—4 巡回展

### 国立美術館巡回展

地方巡回展については、公私立美術館のニーズを踏まえながら、担当する国立美術館の特色を活かした展示を実施し、展覧会に関連する講演会や上映会、ワークショップなども実施することで、鑑賞機会の充実と美術の普及に資することができた。

さらに、国立アートリサーチセンターの設置に伴い、国立美術館コレクションの活用と全国の美術館活動の発展に貢献することを目的として、これまでの「国立美術館巡回展」を発展させた新たな連携事業の構築に向けて検討を行った。新たな連携事業では、国立美術館と全国の美術館等が協働して双方のコレクションを活かした展覧会を開催し、地域でアートを鑑賞できる機会の充実と、美術館の展示・調査研究活動の活性化を図る。

| 企画館     | 展覧会名                                              | 開催館     | 開催日数 | 入館者数   | 満足度   |
|---------|---------------------------------------------------|---------|------|--------|-------|
| 国立国際美術館 | 国立国際美術館コレクション<br>現代アートの100年                       | 広島県立美術館 | 51   | 17,779 | 77.9% |
|         | 国立国際美術館コレクション<br>現代アートの100年<br>ハロー、アート!世界に夢中になる方法 | 大分県立美術館 | 71   | 12,388 | 83.6% |
|         | 合 計                                               |         | 122  | 30,167 | 80.8% |



「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年」会場風景  
(広島県立美術館)



「国立国際美術館コレクション 現代アートの100年」会場風景  
(大分県立美術館)  
撮影：衛藤フミオ

## 優秀映画鑑賞推進事業

国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性について理解を促進することを目的に、文化庁、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を行った。

| 展覧会名            | 会場数   | 開催日数      | 入館者数   | 満足度   |
|-----------------|-------|-----------|--------|-------|
| 令和4年度優秀映画鑑賞推進事業 | 108会場 | 204(延べ日数) | 27,011 | 91.2% |



鹿沼市民文化センター（栃木県鹿沼市）実施会場風景



令和4年度優秀映画鑑賞推進事業  
鑑賞の手引

## 国立映画アーカイブの巡回上映・展示

| タイトル                                                                   | 会場数 | 開催日数 | 入館者数   | 満足度    |
|------------------------------------------------------------------------|-----|------|--------|--------|
| こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！                                              | 5   | 6    | 945    | —      |
| MoMAK Films 2022                                                       | 1   | 8    | 151    | 100.0% |
| 第24回 中之島映像劇場「ケアする映画をたどる」                                               | 1   | 2    | 355    | 95.3%  |
| 【磁気テープの映画遺産を救え！<br>『わが映画人生』デジタルファイル化プロジェクト】<br>『わが映画人生』特別上映会 ―映画監督は語る― | 1   | 10   | 699    | —      |
| アカデミー・フィルム・アーカイブ 映画コレクション                                              | 2   | 30   | 1,955  | —      |
| MONDO 映画ポスターアートの最前線                                                    | 1   | 53   | 50,364 | —      |
| 合 計                                                                    | 11  | 109  | 54,469 | 97.7%  |



「MoMAK Films 2022」会場風景



第24回 中之島映像劇場「ケアする映画をたどる」上映前解説の様子



## 4—5 美術創造活動の活性化の推進（公募団体等への展覧会会場の提供等）（国立新美術館）

国立新美術館においては、我が国の芸術創造活動の活性化を推進するため、全国的な活動を行う美術団体等に公募展示室を提供するとともに、美術団体等から寄せられた要望等を参考に広報支援を実施している。また、公募展と国立新美術館が開催する企画展の観覧料との相互割引を実施するなど連携協力した取組を行った。

新しい美術の動向や現代作家の紹介にも積極的に取り組み、「ダミアン・ハースト 桜」、「ワニがまわる タムラサトル」等、8回の展覧会で30名の現代作家を採り上げた。

| 館 名    | 団体数  | 入館者数    |
|--------|------|---------|
| 国立新美術館 | 80団体 | 878,858 |

【注1】 団体数は令和4年4月1日時点のもの。

【注2】 会期が年度を跨ぐ場合、当該年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日）の入館者数を記載。



第99回 春陽展



第96回 国展



第56回 貞香書展



第77回 行動展



第47回 土日会展



第59回 創玄展

# 5

## 美術情報の収集・発信活動

### 5—1 情報資源発信に向けた取組

国立アートリサーチセンターにおいて「全国美術館収蔵品サーチ」をはじめとする「アートプラットフォームジャパン」サイトのデータベース事業を継承し、データの追加・更新及び持続的な運営・発展体制を構築することなどにより、国内美術館所蔵作品等情報の集約・発信に努めた。

国立美術館の情報発信については、ホームページにおいて、引き続き展覧会情報や調査研究成果などの公表を積極的に実施するとともに、所蔵作品等のデジタル化・データベース化を進めた。

また、ホームページアクセス件数についても、リニューアルによる利便性向上や内容の充実に努め、前年度に比べ、大幅に改善し、目標値を大幅に上回る実績をあげた。



「所蔵作品総合目録検索システム」トップ画面



「所蔵作品総合目録検索システム」作品詳細画面

### ホームページアクセス件数

| 館 名                 | アクセス件数(ページビュー) |
|---------------------|----------------|
| 本部                  | 1,332,204      |
| 東京国立近代美術館(本館・国立工芸館) | 7,451,619      |
| 京都国立近代美術館           | 2,550,242      |
| 国立映画アーカイブ           | 1,973,266      |
| 国立西洋美術館             | 24,064,182     |
| 国立国際美術館             | 2,524,098      |
| 国立新美術館              | 15,678,319     |
| 合 計                 | 55,573,930     |

# 所蔵作品データ等のデジタル化

| 館 名       |       | 画像データ   |        |        |       | テキストデータ |         |        |        |
|-----------|-------|---------|--------|--------|-------|---------|---------|--------|--------|
|           |       | デジタル化件数 |        | 累計公開件数 | 公開率   | デジタル化件数 |         | 累計公開件数 | 公開率    |
|           |       | 新規      | 累計     |        |       | 新規      | 累計      |        |        |
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 35      | 12,218 | 8,115  | 59.5% | 325     | 13,228  | 12,395 | 90.8%  |
|           | 国立工芸館 | 142     | 5,217  | 3,923  | 96.3% | 32      | 5,722   | 4,937  | 121.2% |
| 京都国立近代美術館 |       | 412     | 10,090 | 9,346  | 70.5% | 298     | 16,317  | 15,573 | 117.5% |
| 国立映画アーカイブ |       | —       | —      | —      | —     | 14,244  | 300,070 | —      | —      |
| 国立西洋美術館   |       | 6       | 4,652  | 4,652  | 72.3% | 6       | 5,089   | 5,089  | 79.1%  |
| 国立国際美術館   |       | 186     | 8,853  | 5,052  | 61.9% | 175     | 9,622   | 8,702  | 106.6% |
| 合 計       |       | 781     | 41,030 | 31,088 | 68.2% | 15,080  | 350,048 | 46,696 | 102.5% |

【注1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（国立映画アーカイブについては、ローカルシステムであるNFADへの映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。

【注2】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」(<http://search.artmuseums.go.jp/>)における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注3】上表のほか、東京国立近代美術館ではホームページ内「作品検索」(<https://www.momat.go.jp/collection>)において作品のテキストデータ12,532件及び画像データ8,206件を、国立映画アーカイブでは「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」(<http://nfad.nfaj.go.jp/>)において日本劇映画のテキストデータ7,903件を、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」(<http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>)において作品のテキストデータ6,296件及び画像データ6,467件を、国立新美術館では「ANZAIフォトアーカイブ」(<https://www.nact.jp/anzai/index.php>)においてアーカイブズ資料のテキストデータ3,217件を公開している。

※1 国立工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載している場合等があるため、テキストデータの公開率が高くなっている。

## 5—2 美術情報・資料の収集及び情報サービスの提供

| 館 名       |       | 収集件数   | 累計件数    | 利用者数   | 図書室等のオンライン利用数(件) |
|-----------|-------|--------|---------|--------|------------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 4,201  | 158,224 | 1,032  | 1,580,668        |
|           | 国立工芸館 | 1,607  | 32,961  | 1,014  |                  |
| 京都国立近代美術館 |       | 1,363  | 36,436  | 3      | 138,449          |
| 国立映画アーカイブ |       | 2,038  | 53,831  | 1,186  | 1,409,992        |
| 国立西洋美術館   |       | 612    | 55,058  | 115    | 137,475          |
| 国立国際美術館   |       | 1,166  | 56,980  | 5      | 94,440           |
| 国立新美術館    |       | 2,395  | 165,511 | 11,984 | 1,588,615        |
| 合 計       |       | 13,382 | 559,001 | 15,339 | 4,949,639        |

【注1】上記の図書室等のほか、東京国立近代美術館は本館4階（令和2年度より新型コロナウイルス感染防止のため停止していたが、令和4年10月にリニューアルし再開した）、京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けている。

【注2】平成30年11月3日より京都国立近代美術館及び国立国際美術館では事前予約制による資料閲覧を開始したため、予約閲覧利用者数を「図書室等利用者数」の欄に記載している。

【注3】「図書室のオンライン利用者数」は蔵書検索（OPAC）のアクセス数又は検索数、リボジトリ閲覧件数、パスファインダー閲覧数のうち該当するものの合計値である。





東京国立近代美術館 アートライブラリ



国立工芸館 アートライブラリ



国立映画アーカイブ 図書室



国立西洋美術館 研究資料センター



国立国際美術館 情報コーナー



国立新美術館 アートライブラリー



## JACプロジェクト(国立新美術館)

国立新美術館では、海外では入手が困難な日本の展覧会カタログを海外の日本美術研究の拠点に寄贈するJAC (Japan Art Catalog) プロジェクトを実施し、日本の美術館による研究成果を発信した。また、JACプロジェクトに加えて、ハイデルベルク大学CATS図書館に65冊の資料を寄贈した。

| 寄贈(JACプロジェクト)                              |         |
|--------------------------------------------|---------|
| 寄贈先                                        | 寄贈資料(冊) |
| フリーア美術館 アーサー・M. サックラー美術館図書館(スミソニアン研究所)(米国) | 203     |
| コロンビア大学 エイヴリー建築・美術図書館(米国)                  | 50      |
| ライデン大学 アジア図書館(オランダ)                        | 597     |
| シドニー大学 フィッシャー図書館(オーストラリア)                  | 285     |
| 合 計                                        | 1,135   |



フリーア美術館 アーサー・M・サックラー美術館図書館



コロンビア大学 エイヴリー建築・美術図書館



ライデン大学 アジア図書館



シドニー大学 フィッシャー図書館

# 6

## 教育普及活動

### 6—1 幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等)及びラーニングコンテンツ等の開発

各館においてコロナ禍で定着していたオンラインによるプログラムに加え、令和4年度は東京国立近代美術館の「所蔵品ガイド」など、対面によるプログラムを再開させるなど、事業内容や社会状況に合わせて開催形式を選択し、より多くの人が参加・視聴しやすい環境を心掛けたことにより、満足度も高い水準を維持することができており、参加者数も大幅に増加した。

国立西洋美術館では成人の視覚障がい者の方に向けた鑑賞サポートや視覚障がい者及び聴覚障がい者向けのギャラリートークを新たに実施したほか、国立新美術館での中高生を対象とした新たな事業「NACT YOUTH PROJECT 新美塾!」を開始するなど、幅広い層への鑑賞機会の創出につながる取組を実施した。

また、国立アトリサーチセンターと各館の連携により、幅広い人々を対象とするラーニングコンテンツの開発を進めた。

| 館名        |       | 実施回数  | 参加者数   | 満足度 |
|-----------|-------|-------|--------|-----|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 304   | 4,486  | 93% |
|           | 国立工芸館 | 85    | 1,785  | 94% |
| 京都国立近代美術館 |       | 60    | 2,763  | 85% |
| 国立映画アーカイブ |       | 188   | 14,097 | 92% |
| 国立西洋美術館   |       | 159   | 6,677  | 98% |
| 国立国際美術館   |       | 238   | 8,077  | 94% |
| 国立新美術館    |       | 71    | 3,661  | 97% |
| 合 計       |       | 1,105 | 41,546 | 93% |

### 6—2 ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業及び企業や地域等との連携による事業の開発・実施等

団体受入れの増加に伴い各館においてボランティアスタッフ養成研修を実施するなど、体制整備に努めているほか、ボランティアスタッフが主体となって直接事業を実施すること等によって、ボランティアスタッフ自身の資質向上や将来の美術館を支える若者の育成にもつながっている。

令和4年度は、感染症対策の緩和に伴い、ガイドスタッフによる対面でのプログラムを再開させた館もあり、前年度に比べ、ボランティアや支援団体との相互協力等による教育普及事業参加者数が大幅に増加した。

また、企業や地域との連携については、国立アトリサーチセンターにおいて、東京藝術大学ほか企業・地方自治体・NPO と連携して超高齢社会における孤独・孤立や認知症といった社会的課題に対応する研究プロジェクトを進めている。

| 館名        |       | ボランティア登録者数 | ボランティア参加者数<br>(延べ人数) | 事業参加者数 |
|-----------|-------|------------|----------------------|--------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 49         | 221                  | 792    |
|           | 国立工芸館 | 28         | 72                   | 294    |
| 京都国立近代美術館 |       | 33         | —                    | —      |
| 国立西洋美術館   |       | 56         | 288                  | 3,322  |
| 国立国際美術館   |       | 0          | —                    | —      |
| 国立新美術館    |       | 59         | 30                   | 456    |
| 合 計       |       | 225        | 611                  | 4,864  |



京都国立近代美術館 感覚をひらくワークショップ  
「手だけが知ってる美術館 清水九兵衛／六兵衛」実施風景  
撮影：衣笠名津美



国立映画アーカイブ 上映会《アカデミー・フィルム・アーカイブ 映画コレクション》での上映後講演会の様子



国立西洋美術館 視覚障がい者の方へのサポート



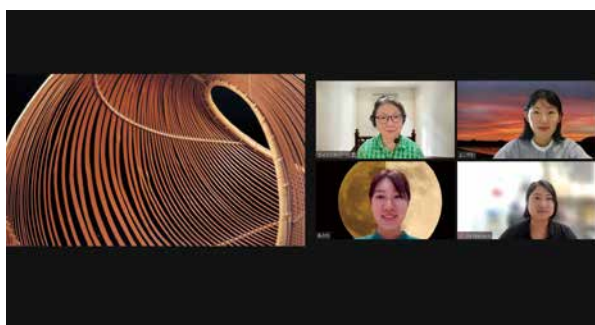
国立国際美術館 大岩オスカル来日記念講演会「ウィルスとの戦い」会場風景



国立新美術館 「NACT YOUTH PROJECT 2022 新美塾！」  
第3回オフ会



東京国立近代美術館 「MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド（定員制）」



国立工芸館 工芸トークオンライン



国立新美術館 「ワニがまわる タムラサトル」でのサポート・スタッフの活動



# 7

## 調査研究活動

### 7—1 調査研究一覧

| 館 名       | 調査研究件数 |
|-----------|--------|
| 東京国立近代美術館 | 24     |
| 国立工芸館     | 21     |
| 京都国立近代美術館 | 21     |
| 国立映画アーカイブ | 27     |
| 国立西洋美術館   | 21     |
| 国立国際美術館   | 15     |
| 国立新美術館    | 21     |
| 合 計       | 150    |

### 科学研究費補助金を受けた調査研究

| 館 名                      | タイトル                                     | 氏名(職名)           |
|--------------------------|------------------------------------------|------------------|
| 東京国立近代美術館                | 1990年代から2000年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究        | 榊田倫広<br>(主任研究員)  |
| 東京国立近代美術館<br>(国立工芸館)     | 1920-50年代のデザイン／工芸の実践に関する基礎的研究            | 中尾優衣<br>(主任研究員)  |
| 東京国立近代美術館<br>(国立映画アーカイブ) | 日本における70ミリ劇映画文化の受容とそのイメージの復元             | 富田美香<br>(主任研究員)  |
| 東京国立近代美術館<br>(国立映画アーカイブ) | 塚田嘉信コレクションを起点に初期映画史を読み直す                 | 入江良郎<br>(学芸課長)   |
| 東京国立近代美術館<br>(国立映画アーカイブ) | カラー映画フィルムのスペクトル分析に基づく忠実な色再現と褪色補正に関する基盤研究 | 大傍正規<br>(主任研究員)  |
| 京都国立近代美術館                | 20世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究                 | 宮川智美<br>(任期付研究員) |
| 京都国立近代美術館                | 中近世ドイツ語圏の金工の社会史的研究—W.ヤムニッツァーを中心に         | 村松綾<br>(任期付研究員)  |
| 国立西洋美術館                  | 美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築—方法の改善・発展と実践        | 高嶋美穂<br>(特定研究員)  |
| 国立西洋美術館                  | 「装飾的」なる概念を介した19世紀末美術と演劇の連動—ナビ派と芸術座を中心に   | 袴田紘代<br>(主任研究員)  |
| 国立西洋美術館                  | 松方コレクション来歴研究とデジタル・カタログ・レゾネ試作             | 川口雅子<br>(主任研究員)  |

注 法人所属研究員が代表研究者として行った研究のみ掲載。



## 7—2 調査研究成果の発信

### 展覧会図録等における発表等

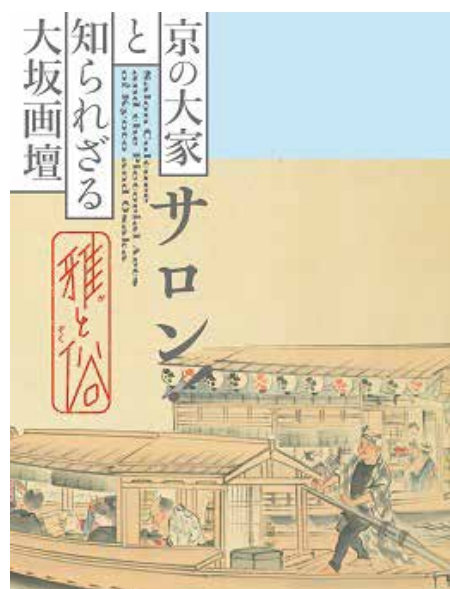
| 館 名       |       | 展覧会図録 | 研究紀要 | 館ニュース | パンフレット・ガイド等 |
|-----------|-------|-------|------|-------|-------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 5     | 1    | 1     | 3           |
|           | 国立工芸館 | 3     | 0    |       | 5           |
| 京都国立近代美術館 |       | 5     | 0    | 7     | 5           |
| 国立映画アーカイブ |       | 0     | 0    | 4     | 28          |
| 国立西洋美術館   |       | 3     | 1    | 2     | 6           |
| 国立国際美術館   |       | 3     | 0    | 4     | 3           |
| 国立新美術館    |       | 4     | 1    | —     | 5           |
| 合 計       |       | 23    | 3    | 18    | 55          |

注 「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子供向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

### 館ニュース・パンフレット・ガイド等



東京国立近代美術館70周年記念展  
重要文化財の秘密 ジュニア・セルフガイド



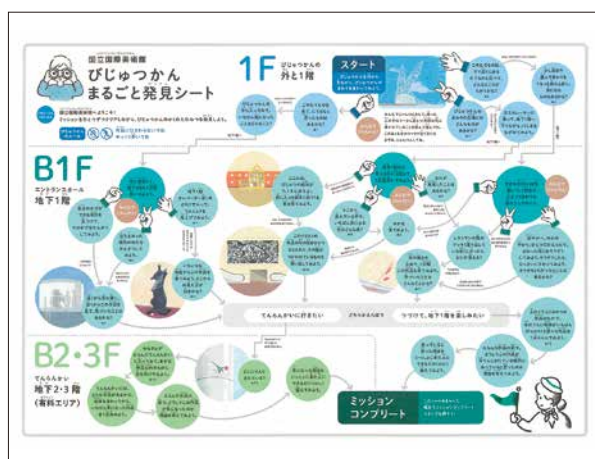
京都国立近代美術館「サロン! 雅と俗—京の大家と知られざる大坂画壇」図録



国立映画アーカイブ NFAJニュースレター第17号



国立西洋美術館ニュース「ゼフュロス」第86号



国立国際美術館『びじゅつかんまると発見シート』



国立新美術館『ルーヴル美術館展 愛を描く ジュニアガイド』

## 学会における発表等

| 館 名       | 学会等発表    | 雑誌等論文掲載 |
|-----------|----------|---------|
| 東京国立近代美術館 | 本館 33    | 55      |
|           | 国立工芸館 23 | 32      |
| 京都国立近代美術館 | 16       | 33      |
| 国立映画アーカイブ | 32       | 18      |
| 国立西洋美術館   | 12       | 42      |
| 国立国際美術館   | 20       | 34      |
| 国立新美術館    | 4        | 12      |
| 合 計       | 140      | 226     |

注 館外の学術雑誌等・学会等に限る。

# 8

## コレクションの形成・活用・継承

### 8—1 作品の収集

国立美術館の役割を踏まえた質の高いナショナルコレクションの形成を図るため、新たに法人全体の作品収集方針等を策定し、重点事項として、①体系的・通史的展示に必要不可欠な作品等の検証・明確化、②ジェンダーバランスや地域性等の多様性への配慮、③国内現存作家の作品等の同時代収集の推進の3点を定め、各館の収集方針に反映させた。また、法人予算の重点配分により現代作品の同時代収集を進めた。

作品の収集については、購入以外にも大型コレクションの一括寄贈の受入など寄贈による収集も国立美術館の特徴であり、購入、寄贈ともに、全体として体系的・通史的にバランスのとれたコレクションの充実を図ることができている。美術史的価値の高い作品を収蔵したほか、国内所蔵の作品の海外流出も防ぐことができ、国立の美術館としての役割を果たしていると言える。

#### 収集点数一覧

| 館 名       |       | 購入点数 | 購入金額(円)       | 寄贈点数 | 年度末<br>所蔵作品数 | 年度末<br>寄託作品数 |
|-----------|-------|------|---------------|------|--------------|--------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 9    | 478,134,300   | 22   | 13,648       | 249          |
|           | 国立工芸館 | 12   | 107,810,000   | 39   | 4,074        | 87           |
| 京都国立近代美術館 |       | 120  | 407,303,800   | 113  | 13,256       | 1,602        |
| 国立西洋美術館   |       | 35   | 1,152,193,540 | 5    | 6,434        | 270          |
| 国立国際美術館   |       | 37   | 749,652,044   | 9    | 8,161        | 104          |
| 合 計       |       | 213  | 2,895,093,684 | 188  | 45,573       | 2,312        |

#### 映画フィルム

| 館 名       | 購入本数 | 購入金額(円)     | 寄贈本数 | 年度末<br>所蔵本数 | 年度末<br>寄託品本数 |
|-----------|------|-------------|------|-------------|--------------|
| 国立映画アーカイブ | 109  | 125,632,071 | 387  | 86,407      | 19,322       |

## 主な新収蔵作品

# 東京国立近代美術館

### 〈本館〉

#### 〈購入〉

彫刻では、フランスの女性彫刻家ジェルメーヌ・リシエ《蟻》(1953年)を購入した。リシエは19世紀と20世紀を結びつける要素を備えた、アルベルト・ジャコメッティと比較される重要作家である。国立美術館全体のコレクションのなかで多様な活用が見込まれる。日本画では、安田靫彦《居醒泉》(1928年)を購入した。再興院展出品の重要作であり、靫彦の画業を通覧する際に欠けていた記紀神話主題の作品を補完できた。また、竹内栖鳳の希少な人物画《日稼》(1917年)を購入した。油彩では、吉澤美香《無題》(1987年)、素描では、川俣正《「TETRA-HOUSE 326 PROJECT」ドローイング》から2点(1983年)、映像では、遠藤麻衣×百瀬文《Love Condition》(2020年)など現代作家の作品を購入した。近年重点的に取り組む80年代作品(吉澤、川俣)、女性作家の作品(吉澤、遠藤×百瀬)の充実など、収集方針に沿った作品を計画的に購入し、多様化する現代の美術動向をより広く紹介することが可能となった。

#### 〈寄贈〉

日本画では、池田蕉園《かえり路》(1915年)を受贈した。東都を代表する美人画の旗手とうたわれた女性画家の大作で、9回文展にて美人画を集めて話題となった「美人画室」の出品作である点などエピソードも多く、さまざまなテーマで活用可能である。油彩では、コンセプチュアル・アートの第一人者として評価される河原温の代表作「日付絵画(Today)」2点(1966年、1988年)を受贈し、作家の仕事を体系的に紹介することが可能となった。版画では海老原瑛《事故現場見取図集》(1970年)、彫刻では堀川紀夫《The Shinano River Plan 1969/2013》(2013年)をそれぞれ作家から受贈した。東京国立近代美術館ではいずれもこれまで未収蔵の作家であり、70年代の多様な芸術動向を示すものとして意義深い収蔵となった。素描の木下晋《103歳の闘争 I》(2003年)、写真のオノデラユキ《11番目の指 No.9》(2008年)も、それぞれ作家から寄贈を受けた。いずれも近年、購入により作品を収蔵した作家であり、すでに収蔵した作品とあわせてより効果的な展観が可能となった。



ジェルメーヌ・リシエ《蟻》1953年  
撮影：大谷一郎



池田蕉園《かえり路》1915年



## 〈国立工芸館〉

### 〈購入〉

川之邊一朝《梨子地青貝唐草内蒔絵硯箱・料紙箱》と芝山象嵌による《渡船・雨宿芝山象嵌屏風》を購入した。明治時代の日本の工芸技術の粋を示す優品を収蔵できたことで、国立工芸館のコレクションの欠落を補い、また作品の海外流出を防いだという点でも国立の美術館としての役割を果たした意義のある購入であった。また、所蔵作品展開催を機に、見附正康と牟田陽日の陶磁作品と、青木千絵と池田晃将の漆工作品など、1970～1980年代生まれの作家の作品を購入したことも今年度の成果として挙げられる。現代的な視点で工芸の分野を新たに切り拓こうとする若い世代の作家にも目配りしつつ、幅広い収蔵を進めることができた。

### 〈寄贈〉

富本憲吉《楽焼葡萄模様壺》を受贈した。本作は、現存作例の少ない大和時代の富本の陶器作りの実践を端的に示すものとしてきわめて貴重であり、イギリスの陶芸家バーナード・リーチとの交流を示す作例として令和4年度の所蔵作品展においても早速活用することができた。また、鈴木治《太陽の道》を受贈した。1980年代の作風をよく示す焼き締め作品の代表作の一つであり、コレクションにさらに厚みを持たせることができた。さらに石黒宗麿、板谷波山、河井寛次郎、鈴木藏、富本憲吉、深見陶冶、森陶岳など、日本の近現代陶芸を代表する作家による香炉を中心としたコレクション21点を一括受贈した。小品であるが作家の特徴を端的に示す作品が揃っており、今後所蔵作品展において活用が期待される。



川之邊一朝《梨子地青貝唐草内蒔絵硯箱・料紙箱》明治時代



芝山象嵌《渡船・雨宿芝山象嵌屏風》  
明治時代

# 京都国立近代美術館

## 〈購入〉

戦後日本の陶芸界における最重要人物として国際的に高く評価される八木一夫の作品75点を一括収蔵した。ここには、オブジェ焼きの記念碑的作品である《ザムザ氏の散歩》(1954年)や、ブロンズやガラスといった異素材作品、ドローイングなどが含まれ、すでに所蔵する51点と合わせて、作家の初期から晩年にいたる創造の軌跡を包括的に研究・紹介できる環境を整えることができた。また、現存三基のみの黒田辰秋《朱漆三面鏡》(1934年)を購入し、2024年度開催予定の黒田生誕100年記念回顧展並びに京都国立近代美術館における民芸関連コレクションの充実化を図った。また、特徴的な購入作品として小出檐重の代表作《裸女結髪》(1927年)が挙げられる。裸婦像で著名な小出ではあるが完成作は30点ほどしか知られていない上、本作品は珍しい座像であり、かつマティス作品との関連も明確で、今後の日本近代洋画研究に大きく寄与するものと期待される。また今年度は、笠原恵美子や竹村京といった女性の現代美術家の作品を購入し、コレクションにおけるジェンダーバランスの是正や中堅・若手作家作品の充実化を目指した。

## 〈寄贈〉

令和4年度も、多彩なジャンルの作品を数多く受贈することができた。なかでも、竹内栖鳳を受け継ぐ動物画の名手山口華楊の代表作《月夜野》(1971年)は、今後コレクション展などでの活用が期待される。またパンリアル美術協会を牽引した不動茂弥と山崎隆、染色家の小合友之助についても数多くの貴重な作品・資料の寄贈を受けた。これらはすべて作家遺族からの寄贈であり、展覧会開催や日頃の活動などを通じて、地道に築き上げた作家遺族との信頼関係が基礎になっている点が重要である。また京都国立近代美術館の日本画コレクションをよく知る元学芸課長島田康寛が築いた「春星館コレクション」から、コレクションを補完する作品として、塩川文麟《雪中平等院》(1863年)ほか13点が寄贈された。加えて、北大路魯山人《紅志野茶碗》(1945-59年)や音丸耕堂《彫漆香合 紫陽花》(1970年)、松田権六《長生の器》(1940年頃)など、小振りではあるものの各作家の作風や優れた技術を知ることができる茶道具を中心とした個人コレクションからも29点を受贈し、工芸コレクションの充実化を図ることができた。



八木一夫《ザムザ氏の散歩》1954年



小出檐重《裸女結髪》1927年

# 国立映画アーカイブ

## 〈購入〉

上映企画に伴う映画フィルム購入に関しては、「東宝の90年モダンと革新の映画史」に関連して、『都会の横顔』（1953年）等17作品、21本のフィルムを、また「生誕120年映画監督山本嘉次郎」に関連して、『東京の休日』等9作品、10本のフィルムと、『標高8125米 マナスルに立つ』（1956年）1作品のデジタル保存用素材を購入することができ、撮影所全盛期の代表的なジャンル映画を多数収蔵してコレクションの欠落を補うことができた。さらに、「日本の女性映画人（1）——無声映画期から1960年代まで」に関連して、『開拓の花嫁』（1943年）等13作品、17本のフィルムと、『村の婦人学級』（1957年）1作品のデジタル上映用及び保存用素材を購入することで、従来の映画史的な記述から漏れがちだった女性映画人が携わった作品を収蔵することができ、新たな映画史を提示するという意味において、国立映画機関として意義のある購入となった。その他、現代日本映画を代表する作家・相米慎二監督の『お引越し』（1990年）について、公開当時の撮影監督とタイミング担当者の協力を得て、再タイミング版のプリントを作製できたことも、非常に意義のある購入だった。

## 〈受贈〉

映画フィルムの寄贈受け入れ本数は、387本、42件だった。令和2年度から4年度にかけて行った、1980年代と1990年代の日本映画を特集した上映企画がきっかけとなり、独立系映画製作会社から原版の寄贈を受けたことが大きな特徴であり、作品としては『生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言』（1985年）や『あなたがすぎです、だいすぎです』（1994年）、『第七官界彷徨 尾崎翠を探して』（1998年）などがある。その他にも、故・中沢啓治製作のアニメーション映画『はだしのゲン』（1983年）や横山博人監督の『純』（1980年）、三原光尋監督の『真夏のビタミン』（1994年）など、1980～90年代の日本映画のシーンを形成した自主製作映画についても、原版受贈によりコレクションを築くことができた。1980年代以降の日本映画は、こうした独立系映画製作会社が多数出現して作品製作を行い、現在も著作権を保持しているケースが多いため、このように受贈できる機会はきわめて重要であり、現代日本映画の保存において大きな意義を持っている。映画関連資料については、例年通り映画会社・個人などから多種の資料寄贈を受けている。



『開拓の花嫁』（1943年、坂根田鶴子監督）より



『都会の横顔』（1953年、清水宏監督）より  
(©1953 TOHO Co., Ltd)

# 国立西洋美術館

## 〈購入〉

アウグスト・ストリンドベリの油彩《インフェルノ（地獄）》、ホアキン・ソローリャの油彩《水飲み壺》、アルブレヒト・デューラーの木版画連作『聖母伝』等の作品を購入した。ストリンドベリとソローリャの作品はそれぞれ作者の代表作のひとつである。松方コレクションに由来するフランス美術の作品が多数を占める国立西洋美術館の近代美術コレクションは、近年デンマークやフィンランド、ドイツといった周縁国の画家の作品を加えることによって、ヨーロッパ全体を俯瞰する方向に拡充してきた。スウェーデンとスペインの国民画家であるストリンドベリとソローリャの作品の収蔵は、この流れに沿うものであり、西洋近代美術の多様な表現を展覧することが可能になった。デューラーの『聖母伝』は『黙示録』『大受難伝』の各連作とともに「三大書物」と呼ばれる。今回の購入により、国立西洋美術館はこれらすべてを収蔵することになった。デューラー作品のコレクションの充実にとどまらず、西洋版画コレクション全体にとっても画期的な追加である。

## 〈寄贈〉

令和4年度受贈した作品のうち、レンブラントの《風車》はこの作家の典型的な風景版画であり、継続的にレンブラントの版画作品を収集してきた国立西洋美術館にとって、重要な追加となる。この作品は旧松方コレクションに由来し、松方幸次郎の孫に当たる方から寄贈されたものである点も、特筆される。松方コレクションに含まれるオールド・マスター作品の貴重な例と言えよう。同じく受贈したブーダンの《海浜》は、1967年以来半世紀にわたり国立西洋美術館に寄託されてきた素描である。寄託された当初の所有者は、「アラビア太郎」の綽名で知られたアラビア石油の創設者、山下太郎の妻である山下和子氏であった。長らく日本にあった作品が国外流出せず、国立西洋美術館に留まることになったことは重要な成果と言える。



アウグスト・ストリンドベリ《インフェルノ（地獄）》  
1901年



ホアキン・ソローリャ《水飲み壺》1904年



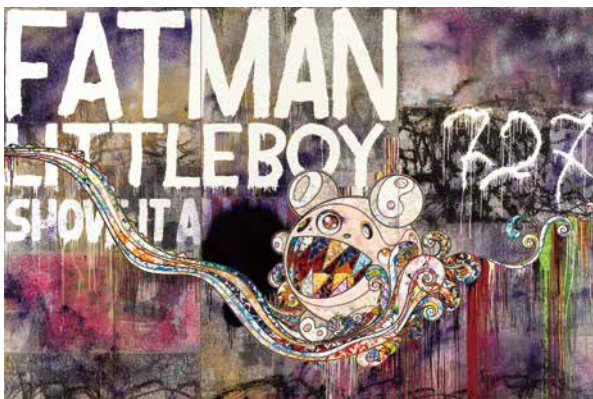
# 国立国際美術館

## 〈購入〉

令和4年度は、村上隆《727 FATMAN LITTLE BOY》(2017年)ほか37点の作品を購入することができた。世界的に評価の高い村上隆作品は国立国際美術館にとって初収蔵となり、代表的絵画シリーズがコレクションに加わったことは意義深く、洋画、彫刻、写真、映像など多岐にわたるジャンルの作品が購入でき、女性作家の作品も数多く収集することで、コレクションのジェンダーバランス是正に配慮することができた(田島美加、石川真生、西山美なコ、ブブ・ド・ラ・マドレーヌほか)。また、国内作家のみならず、タイ(アリン・ルンジャー)、フィリピン/イギリス(マリア・ファアラ)、ドイツ(アストリッド・クライン)など幅広い地域の作家の作品を収集し、国際的な現代美術の収集の継続に努めた。

## 〈寄贈〉

9点の作品寄贈を受けた。1点または複数点の作品購入に伴い、購入品と別のタイプの作品を受贈することで作家の多面性を担保することのできた例として、柏原えつとむ、西山美なコ、マリア・ファアラを挙げることができる。ニューヨークを拠点に再評価の機運が高まる篠原有司男の渡米前の大変貴重な作例《花魁》、《凧》は、寄託作品から寄贈が実現した。着実にキャリアを積む中、不慮の事故で夭逝した関西出身の作家、國府理の作品は遺族より申し出があり、調査の上、国立国際美術館のコレクションに適した《Tug Tricycle》を受贈することができた。また、過去に開催した展覧会の出品作であったナムジュン・パイクの資料については、所蔵者から寄贈の申し出を受け入れた。



村上隆《727 FATMAN LITTLE BOY》2017年  
Background in collaboration with MADSAKI  
©2017 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.



西山美なコ《ようこそあなたのシンデレラ・キッチュS》2004年  
©Minako Nishiyama

## 8—2 所蔵作品の修理・修復

| 館 名       |       | 点数 | 主な修復作品                                    |
|-----------|-------|----|-------------------------------------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 25 | 藤田嗣治《五人の裸婦》(1923年)                        |
|           | 国立工芸館 | 37 | 稲垣稔次郎《紙本型絵染額面 路》(1961年)                   |
| 京都国立近代美術館 |       | 15 | 菊池芳文ほか(合作)(1899年)、木島桜谷《鹿図》(明治40年代頃?)      |
| 国立西洋美術館   |       | 92 | コッテ《ブルターニュの入り江》(制作年不明)                    |
| 国立国際美術館   |       | 39 | 黒川弘毅《Eros 25》(2001年)、オノ・ヨーコ《忘れなさい》(1988年) |

(単位:本)

| 館名        | 修復<br>作品総数 | デジタル<br>復元 | ノイズリダ<br>クション等 | 不燃化<br>作 業 | 映画<br>フィルム洗浄 | 主な修復フィルム                                         |
|-----------|------------|------------|----------------|------------|--------------|--------------------------------------------------|
| 国立映画アーカイブ | 63         | 0          | 16             | 35         | 12           | 『アトランティドー熱砂の女王』(1932年)、<br>『続水戸黄門廻国記』<br>(1938年) |

## 8—3 所蔵作品の貸与

### 美術作品の貸与等

| 館 名       |       | 貸出  |       | 特別観覧 |     |
|-----------|-------|-----|-------|------|-----|
|           |       | 件数  | 点数    | 件数   | 点数  |
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 75  | 339   | 155  | 402 |
|           | 国立工芸館 | 12  | 102   | 24   | 31  |
| 京都国立近代美術館 |       | 58  | 949   | 53   | 169 |
| 国立西洋美術館   |       | 14  | 61    | 72   | 230 |
| 国立国際美術館   |       | 14  | 66    | 15   | 25  |
| 合 計       |       | 173 | 1,517 | 319  | 857 |

### 写真作品観覧制度(プリントスタディ)

東京国立近代美術館では所蔵する写真作品を、申込制によって個別に観覧できる制度を実施した。

| 館 名       | 利用件数 | 観覧者数 | 観覧作品数 |
|-----------|------|------|-------|
| 東京国立近代美術館 | 0    | 0    | 0     |

注 新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

### 映画フィルムの貸与等

| 館 名       | 貸出 |     | 特別映写観覧 |     | 複製利用 |    |
|-----------|----|-----|--------|-----|------|----|
|           | 件数 | 本数  | 件数     | 本数  | 件数   | 本数 |
| 国立映画アーカイブ | 81 | 166 | 55     | 206 | 41   | 78 |

### 映画関連資料の貸与等

| 館 名       | 貸出 |    | 特別観覧 |     |
|-----------|----|----|------|-----|
|           | 件数 | 点数 | 件数   | 点数  |
| 国立映画アーカイブ | 5  | 83 | 50   | 330 |

## ナショナルセンターとしての活動

### 9—1 国内外の美術館等との連携・協力等

各館とも展覧会の開催に合わせたシンポジウム、研究会、講演会等の開催や、国際会議への出席等を通じて人的ネットワークの構築を積極的に行った。

また、国立アトリサーチセンターにおいて、新たな巡回展の実施に向けた検討や令和4年度に承継した「全国美術館収蔵品サーチ」について国内美術館と連携し、国内美術館収蔵作品情報等の集約・発信等に努め、美術振興のナショナルセンターとして国内美術館の活動全体の活性化に向けた取組を進めた。

#### 国内外の研究者の招へいによるシンポジウムの開催等

| 館 名       |       | 所蔵作品等に関する<br>セミナー・シンポジウムの開催回数 | 国内外の研究者の招へい等に基づく<br>セミナー・シンポジウムの開催回数 |
|-----------|-------|-------------------------------|--------------------------------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 1                             | 1                                    |
|           | 国立工芸館 | 2                             | 3                                    |
| 京都国立近代美術館 |       | 0                             | 7                                    |
| 国立映画アーカイブ |       | 2                             | 3                                    |
| 国立西洋美術館   |       | 0                             | 1                                    |
| 国立国際美術館   |       | 0                             | 7                                    |
| 国立新美術館    |       | 0                             | 22                                   |
| 合 計       |       | 5                             | 44                                   |

#### 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

| 館 名       |       | 共同主催件数 | 共同研究件数 |
|-----------|-------|--------|--------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 4      | 4      |
|           | 国立工芸館 | 4      | 5      |
| 京都国立近代美術館 |       | 6      | 7      |
| 国立映画アーカイブ |       | 9      | 8      |
| 国立西洋美術館   |       | 1      | 2      |
| 国立国際美術館   |       | 3      | 3      |
| 国立新美術館    |       | 4      | 4      |
| 合 計       |       | 31     | 33     |

#### 国際交流

| 館 名        |       | 招へい者数 | 来館者数 |
|------------|-------|-------|------|
| 国立美術館本部事務局 |       | 0     | 0    |
| 東京国立近代美術館  | 本館    | 0     | 22   |
|            | 国立工芸館 | 0     | 0    |
| 京都国立近代美術館  |       | 0     | 40   |
| 国立映画アーカイブ  |       | 2     | 10   |
| 国立西洋美術館    |       | 0     | 21   |
| 国立国際美術館    |       | 1     | 1    |
| 国立新美術館     |       | 20    | 8    |
| 合 計        |       | 23    | 102  |

注 招へい者とはシンポジウム・講演会を開催するために海外から招いた者を指す。来館者とは、海外からの来賓及び賓客を指す。

## 9—2 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

17年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、3年ぶりに対面で開催した。修了者数は54名で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、実地研修に参加できなかった受講者6名のうち希望した4名については、後日、研修プログラム内の講演部分の録画を視聴案内し、ビデオ講習修了者として修了証書を発行した。

また、本研修の記録はウェブサイトで公開しており、例年、より多くの情報を伝えるとともに視認性の向上に努めており、令和4年度は、新たに研修2日間の様子や本研修の核となるグループワークの様子を撮影したダイジェスト動画をウェブサイトで公開した。

- ・修了者数：54名（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等教諭36名、美術館学芸員14名、指導主事4名）
- ・会 期：令和4年8月1日（月）、8月2日（日）
- ・参加者の満足度：98.1%（目標：98.8%）
- ・Web報告書：<https://ncar.artmuseums.go.jp/reports/learning/post2023-417.html>



グループワークの様子



テーブルトークの様子

## 9—3 キュレーター研修、インターンシップ、博物館実習

公私立美術館の学芸担当職員の専門知識の向上等を図ることを目的とした「キュレーター研修」を実施した。また、インターンシップ、博物館実習を実施した。

| 館 名       |       | キュレーター研修<br>受入人数 | インターンシップ<br>受入人数 | 博物館実習<br>受入人数 |
|-----------|-------|------------------|------------------|---------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館    | 4                | 5                | —             |
|           | 国立工芸館 | 0                | 0                | —             |
| 京都国立近代美術館 |       | 3                | 1                | —             |
| 国立映画アーカイブ |       | —                | 1                | 12            |
| 国立西洋美術館   |       | 4                | 7                | —             |
| 国立国際美術館   |       | 3                | 7                | —             |
| 国立新美術館    |       | 2                | 6                | —             |
| 合 計       |       | 16               | 27               | 12            |

## 9—4 アートカード・セット

全国の小・中学校、高等学校及び大学に対し国立美術館の所蔵作品による鑑賞教材「アートカード・セット」の貸出しを行った。（東京国立近代美術館（本館）23件178セット、京都国立近代美術館5件38セット、国立西洋美術館3件16セット、国立国際美術館9件70セット）



アートカード・セット



# 10

## 決算報告

(単位：百万円)

|                           | 予算金額   | 決算金額   | 増△減額  |
|---------------------------|--------|--------|-------|
| 収入                        |        |        |       |
| 運営費交付金                    | 8,423  | 8,423  | —     |
| 展示事業等収入                   | 1,303  | 1,319  | 15    |
| 施設整備費補助金                  | 400    | 1,125  | 725   |
| 文化芸術振興費補助金                | —      | 54     | 54    |
| 受託収入                      | —      | 202    | 202   |
| 寄附金収入                     | 650    | 723    | 73    |
| 合 計                       | 10,776 | 11,845 | 1,068 |
| 支出                        |        |        |       |
| 運営事業費                     | 9,726  | 9,618  | 108   |
| 人件費                       | 1,264  | 1,212  | 52    |
| 一般管理費                     | 675    | 927    | △252  |
| 事業部門経費                    | 7,787  | 7,479  | 308   |
| うち美術振興事業費                 | 3,282  | 3,077  | 205   |
| うちナショナルコレクション<br>形成・継承事業費 | 3,176  | 3,243  | △67   |
| うちナショナルセンター事業費            | 1,330  | 1,160  | 170   |
| 施設整備費                     | 400    | 1,125  | △725  |
| 文化芸術振興費                   | —      | 54     | △54   |
| 受託事業費                     | —      | 202    | △202  |
| 寄附金事業費                    | 650    | 477    | 173   |
| 合 計                       | 10,776 | 11,475 | △698  |
| 収支差引                      | 0      | 370    | 370   |

注 金額は単位未満四捨五入のため、合計が合致しない場合がある。

# 11

## 会員制度等

### 友の会

| 館 名       | 一般会員 | 一般会員<br>(学生) | 特別会員 | 団体会員 | 法人会員 | 年度末会員数<br>計 |
|-----------|------|--------------|------|------|------|-------------|
| 東京国立近代美術館 | 823  |              |      |      |      | 823         |

### 賛助会員

| 館 名       | 個人会員 | 維持会員 | 特別会員 | 一般会員 | プレミアム会員 | 年度末会員数<br>計 |
|-----------|------|------|------|------|---------|-------------|
| 東京国立近代美術館 | 216  | 25   | 11   |      | 2       | 254         |
| 京都国立近代美術館 |      |      | 1    | 5    |         | 6           |
| 国立国際美術館   |      |      | 4    | 8    |         | 12          |

### MOMAT支援サークル

| 館 名       | プラチナパートナー | ゴールドパートナー | シルバートナー | 年度末会員数<br>計 |
|-----------|-----------|-----------|---------|-------------|
| 東京国立近代美術館 | 4         | 5         | 9       | 18          |

### キャンパスメンバーズ

国立美術館全体の事業として平成18年12月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」について、令和4年度は5校の新規加盟があり、退会校1校と合算すると前年度比4校の増加となった。(メンバー校102校、利用者数97,304人)

平成29年度から実施している外部媒体(マイナビ「学生の窓口」)を活用した広報では、「みんなで、みると、みえてくる! 国立美術館の歩き方をモニタリング調査」と題し、国立西洋美術館にそれぞれ専攻が異なる4人の大学生に集まってもらい、実際に館内を巡りながら、それぞれの視点でどのように美術館を楽しんでいるのかを意見交換してもらうという記事を掲載し、学生に対する広報活動を引き続き強化した。同記事は、令和3年度のページビュー数8,769回を上回る10,643回閲覧された。

| 入会校数     | 利用者数   |
|----------|--------|
| 102学校・法人 | 97,304 |

キャンパスメンバーズ特設サイトURL:<https://www.campusmembers.jp/>

# 12

## 名簿

令和5年3月31日現在

|        |                                                            |        |
|--------|------------------------------------------------------------|--------|
| 役員等    | 理事長・国立新美術館長                                                | 逢坂 恵理子 |
|        | 理事・本部事務局長                                                  | 森 孝之   |
|        | 理事                                                         | 渡部 葉子  |
|        | 監事                                                         | 田中 淳   |
|        | 監事                                                         | 茶田 佳世子 |
|        | 副理事・国立西洋美術館長                                               | 田中 正之  |
|        | 東京国立近代美術館長                                                 | 小松 弥生  |
|        | 国立工芸館長                                                     | 唐澤 昌宏  |
|        | 京都国立近代美術館長                                                 | 福永 治   |
|        | 国立映画アーカイブ館長                                                | 岡島 尚志  |
|        | 国立国際美術館長                                                   | 島 敦彦   |
|        | 国立アトリサーチセンター長                                              | 片岡 真実  |
| 運営委員   | 今橋 映子 (東京大学大学院総合文化研究科教授)                                   |        |
|        | 垣内 恵美子 (政策研究大学院大学名誉教授)                                     |        |
|        | 坂村 健 (INIAD (東洋大学情報連携学部) 学部長、YRPユビキタス・ネットワーク研究所長、東京大学名誉教授) |        |
|        | 篠原 資明 (高松市美術館アートアドバイザー)                                    |        |
|        | 島田 康寛 (前神戸市立小磯記念美術館長)                                      |        |
|        | 島谷 弘幸 (独立行政法人国立文化財機構理事、九州国立博物館長)                           |        |
|        | 白石 和己 (式年遷宮記念神宮美術館長)                                       |        |
|        | 住友 吉左衛門 (公益財団法人住友財団理事長)                                    |        |
|        | 妹島 和世 (建築家、妹島和世建築設計事務所代表取締役、横浜国立大学名誉教授、東京都庭園美術館長)          |        |
|        | 田端 一恵 (社会福祉法人グロー東近江障害施設群総合施設長)                             |        |
|        | 富田 章 (東京ステーションギャラリー館長)                                     |        |
|        | 仲町 啓子 (実践女子大学名誉教授、秋田県立近代美術館特任館長)                           |        |
|        | 樋田 豊次郎 (美術史家)                                              |        |
|        | 平野 共余子 (映画史家)                                              |        |
|        | 藤田 治彦 (大阪大学名誉教授、藝術関連学会連合会長)                                |        |
|        | 松本 正道 (アテネ・フランセ文化事業株式会社代表取締役)                              |        |
|        | 森迫 清貴 (京都工芸繊維大学長)                                          |        |
|        | 矢ヶ崎 紀子 (東京女子大学教授)                                          |        |
| 外部評価委員 | 岡田 温司 (京都大学名誉教授、京都精華大学大学院特任教授)                             |        |
|        | 熊倉 純子 (東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授)                               |        |
|        | 黒田 亮子 (美術史家)                                               |        |
|        | 深井 晃子 (公益財団法人京都服飾文化研究財団理事／名誉キュレーター)                        |        |
|        | 宮澤 誠一 (日本大学芸術学部映画学科非常勤講師)                                  |        |

### 独立行政法人国立美術館本部事務局

東京国立近代美術館内  
〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1  
TEL: 03-3214-2561  
FAX: 03-2314-2577  
URL: <https://www.artmuseums.go.jp/>

### 各種報告書等リンク先

[https://www.artmuseums.go.jp/corporate\\_info/gyoumu/houkoku](https://www.artmuseums.go.jp/corporate_info/gyoumu/houkoku)

